「朝鮮学報」第180輯 別刷
平 成 13 年 7 月 刊
2002

I-고, III-서と動詞のアスペクト的特徴との関連性

――アスペクト形式による用言分類を通して――

鄭　玄　淑

Ⅰ-고，Ⅲ-서と動詞のアスペクト的特徴との関連性

——アスペクト形式による用言分類を通して——

鄭　玄　淑

【要旨】本稿は，現代朝鮮語の接続形하고と해서について，それらを取る動詞のアスペクト的特性との関連性を明らかにし，さらに両接続形の機能について述べる。その際，前提となるアスペクトによる動詞分類は，浜之上幸（1991），野間秀樹（1993b）に依拠し，必要に応じて筆者の観点を追加した。

単一主体，単一動作で하고있다形式のみを持つ動詞が하고を取ったとき，時間的関係による＜先行＞＜様態＞＜継起＞＜同時＞の意味を実現し，해서を取ったときは，すべてが論理的関係による意味の＜手段・方法＞＜原因・理由＞となることを明らかにした。

次に，해있다形式を持つ動詞が해서を取ったときは，すべてが時間的関係による意味の＜様態＞となり，その際，前件動作終了後その結果が継続する局面を受ける。하고を取ったときは，非時間的関係による意味の＜並列＞となる。

次に，単一主体，単一動作において하고있다形式，해있다形式を共に持たない動詞が하고を取ったときは，複数主体，複数動作においては하고있다形式を持ち得る場合とそうでない場合とに分けられ，前者のみが時間的関係の意味を実現する。

《하고の機能》　時間的関係…하고있다形式のみを持つ動詞をとって，前件動詞の生起～終了局面のある一点を受ける
非時間的関係…アスペクト形式とは関係なく，すべての品詞をとって，前件と後件を単に“羅列”させる

《해서の機能》　時間的関係…해있다形式を持つ動詞をとって，前件動詞の終了結果が継続する局面全体を受ける
論理的関係…(1) アスペクト形式とは関係なく，すべての品詞をとって，前件と後件を“因果関係”で結ぶ
(2) 하고있다形式のみを持つ動詞をとって，前件と後件を“手段・方法”で結ぶ

0. 本稿の目的

本稿[(1)]は，現代朝鮮語の接続形Ⅰ-고”と“Ⅲ-서”（以後“하고，해서”と記す[(2)]）について，これらの接続形を取る用言のアスペクト的特徴との関連性を明らかにし，さらに하고，해서の機能を明らかにすることを目的とする。

1. 先行研究

하고，해서は接続形のなかでも最も頻繁に用いられており，최현배(1929)を始めとする多くの先学[(3)]によって，形態論的，統辞論的，意味論的な側面から研究が蓄積されてきた。なかでも，해서に関する権在淑（1994b）の研究は，用言の性質との関わり，とりわけ意志動詞，無意志動詞[(4)]などを具体的実例に即して考察した点で重要である。鄭玄淑[(5)]（1996）は，権在淑（1994b）の方法論を踏襲して하고を分析したもので，まず実現される意味を規定した上で，用言の種類との関連性を明らかにし，それらをタクシス性と関連づけて[(6)]論じた。

一方，菅野裕臣（1971：191，206）によれば，하고，해서とそれらを取る動詞のアスペクト的特徴[(7)]との関連性をいち早く提唱したのは，旧ソ連邦の G. E. Rachkov [Рачков]（1962）であり[(8)]，後続する用言を移動動詞と限定した上での考察であったが，極めて注目に値するものである。大韓民国でも，서정수（1982b，1996）など，하고や해서と動詞のアスペクト的特徴との関連を述べた論考はあるが，アスペクト的特徴の分類基準[(9)]に具体性を欠き，両接続形の機能的本質を究明するには至っていない。両接続形を対比的に取り扱った研究としては，内山政春（1999）と鄭玄淑（1999）がある[(10)]。前者は，権在淑（1994b），鄭玄淑（1996）を批判的に継承したもので，하고，해서の新しい文法的意味を提示しようとしたが，「一体化」，「場面」など分析の鍵となる概念の規定が曖昧[(11)]で論旨に明快さを欠き，その結論にも疑問が残る[(12)]。また，後者は，特定の動詞類が하고を取る場合はアスペクト的特徴と深く関わることを明らかにした。ただし，この結論は，分析の対象を＜様態＞の하고に限定したうえで得られたもので，その全体像

を示すものではない。本稿は基本的に，権在淑（1994b），鄭玄淑（1996, 1999）を踏まえ，アスペクト形式による用言分類との関連を通して，하고，해서の用例を網羅的に分析し，その全体像を明らかにせんとするものである。

ところで，朝鮮語のアスペクトの研究は，旧ソ連邦の研究に端を発し，その後さまざまな研究が積み重ねられてきた。(13) しかし，その中でも浜之上幸（1991, 1992, 1997a, 1997b）は，言語資料に基づく動詞分類を初めて試みたもので，これまでの研究とは異なり，文法範疇としてのアスペクト(aspect)，語彙範疇としての動作様式＝アクツィオーンスアールト(Aktionsart)，機能＝意味論的範疇機能としてのアスペクチュアリティー(aspectuality）を厳密に区別して論じたもので，現段階では最も進んだ研究と考えられる。このような浜之上幸（1991）のアスペクトの分類に，野間秀樹（1993b）は複数主体の複数動作や反復動作に対する観点を導入した。하고，해서と用言のアスペクト的特徴との関連性を研究するにあたって，両氏の諸論文は非常に有用であり，本研究も両氏の研究成果に依拠している。

2. 研究の前提

2.1. 研究の方法及び資料について

本研究は，하고と해서の実際に使われている用例を同一資料の範囲内で収集し，それに基づいて実証的に分析，分類する。その方法と資料の取り扱い方その他，詳細については，鄭玄淑（1996, 1999）を継承する。(14) また，用例を扱う際には，当該の単語のみならず文脈を共に扱う。(15)

2.2. 하고，해서が実現する意味と考察対象の限定

鄭玄淑（1996）は，하고の実現する意味を①〜⑥の6つに分けて定義しており，その内容に大きな変更を加えない範囲で細部の字句を若干修正してここに提示する。

①先行…前件が後件より先に終了し，その結果が残らずに後件が起こる。

②様態…前件が後件より先に終了し，その結果が残るなかで後件が起こる。
③同時…前件と同時に後件が行われる。
④並列…前件と後件がたんに列挙される。
⑤原因・理由…前件が原因・理由となり，その結果が後件として表れる。
⑥条件…前件が後件を条件付ける。

また，本稿ではさらに＜手段・方法＞と＜継起＞の実現する意味を追加した。

⑦手段・方法…後述することがらをなすための手段・方法を表す。
⑧継起…前件が先に起こり，それが継続するなかで後件が起こる。

前者は権在淑 (1994b) の定義を踏襲して規定したが，後者については次の例を見てもらいたい(16)。

(1) 둘 사이를 알고 반대하는 외삼촌 눈치 보기도 진력이 났다.{멀리：151}
(二人の間柄を知って反対する叔父の顔色を伺うのも嫌気がさした。)

(1) は，'둘 사이를 알다' (二人の間柄を知る) が先に起こってはいるが，それが継続するなかで반대하다 (反対する) が起きている。例えば，＜様態＞の '가방을 들고 간다' (カバンを持って行く) の場合，前件 '가방을 들다' (カバンを持つ) が先に終了し，その結果が残っているなかで後件が始まる点で (1) の用例と異なる。＜同時＞の '리어카를 끌고 간다' (リヤカーを牽いて行く) の場合，前件と後件が同時に進行しているので，また例 (1) と異なる。(1) のような用例は，鄭玄淑 (1996：34-38) では因果関係を重視して＜原因・理由＞と解釈したが，本稿では前後件の時間的関係を重視して＜継起＞とした。なお，鄭玄淑 (1996) では上述の定義を하고に限って用いたが，本稿では，해서を分析する際にも適用する。

さて，하고，해서に関するこれら 8 種の意味は，鄭玄淑 (1996：78-80)

で指摘したように，時間的関係による意味（<先行><様態><継起><同時>）と，時間的関係とはまったくかかわらない非時間的関係による意味（<並列>）と，論理的関係による意味（<原因・理由><手段・方法><条件>）に大別される[17]。本稿は하고，해서と用言のアスペクト的特徴との関連性を明らかにしようとするものであるから，主に時間的関係の意味に着目し[18]，非時間的関係や論理的関係による意味については極力省略して論じていくことにする。

なお，次のような用例は考察の対象としない。

(2) 눈의 푸른 기가 한층 깊어져서 귀기가 감돌았다. {엄마 : 51}
(目の青い色がさらに濃くなって鬼気が漂った。)
(3) 사람은 죽고 그 소리는 복제되어 … {해질녘 : 308}
(人は死に，その声は複製され…)

(2) は，前件と後件の主体[19]が異なる例で，意味は<原因・理由>となり，(3) は，前件と後件が行われる場面が異なる[20]例で，意味は<先行>となる。このように，前後件の主体や場面が異なり，それぞれに主語と述語が揃っている文は，前後件の内容がそれぞれに完結している。要するに，接続形を除いて文を２つに割って，２つの文を作ることができるのである。こうした用例は，本研究にとって有益性の低い分析対象であるので，考察の対象外とする[21]。

また，指定詞（名詞等＋指定詞も含む），存在詞，形容詞は하고を取ると基本的に<並列>となり，まれに<原因・理由>となって，時間的関係による意味は実現しない。同様に해서を取っても，その大半が<原因・理由>となって時間的関係による意味はほとんど実現しない。したがって，これらも考察の対象外とし，品詞としては動詞のみを取り扱う。なお，本研究で収集した用例の出現頻度は하고が 4,336 例，해서が 1,705 例で，両接続形と結合する品詞は，両者とも動詞が 70%以上現われている。

3. アスペクトの形式とクラスの分類

3.1. 現代朝鮮語動詞のアスペクト形式

本節では하고，해서を取る動詞を，アスペクト形式である“하고 있다”，“해 있다”（以下，便宜上하고있다，해있다と記す）形式を取り得るかどうかの形態的基準によって分析する。その際，한다，했다形式は用いない。(22)

以下，《1》하고있다形式のみを持つもの，《2》하고있다形式と해있다形式両者を共に持つもの，また，해있다形式のみを持つもの，《3》하고있다形式と해있다形式を共に持たないもの，の3つにまとめて論じる。

3.2. 現代朝鮮語のアスペクト的クラス

浜之上幸（1991）は，動詞のうち하고있다形式を持つものを「動作動詞」，持たないものを「状態動詞」とし，動作動詞についてはさらに먹다（たべる），걷다（歩く）のように，하고있다形式が「具体的な動作を表し局面を特定できるもの」と，알다（分かる，知る），열중하다（熱中する）のように「具体的な動作を持たないもの」に下位分類し，前者を「動作性動作動詞」，後者を「状態性動作動詞」としている。動作性動作動詞は，また「主体変化後の局面を表す形式を持つかどうか」（＝動作後の主体が変化するかどうか）でさらに「主体変化動詞」と「主体非変化動詞」に下位分類する。(23)

また，野間秀樹（1993b：29-35）は，単一主体の単一動作において하고있다形式を持ち得るかどうかで，「有局面動詞」と「無局面動詞」とに分けている。本稿では，前掲の浜之上幸（1991）の「動作動詞」と「状態動詞」の分類に，さらに「有局面動詞」と「無局面動詞」の観点を加えて考察していくことにする。

3.3. 하고있다形式のみを持つ動詞と하고，해서

3.3.1. 하고있다形式のみを持つ動詞が하고を取る場合

以下，하고있다形式のみを持つ有局面動詞が，하고を取ったときに実現する意味を確認しつつ，動詞のアスペクト的特徴との関連性を考察してい

こう。

3.3.1.1.　＜先行＞の하고

(4) 여자 분은 먼저 내려와 아침을 먹고 떠났습니다. {천지간：59}
(女性の方は先に降りて朝御飯を食べて発ちました。)

(4) は‘아침을 먹다’（朝御飯を食べる）が終了して，その結果が残らないで떠나다（発つ）が行われるので＜先行＞と解釈できる。なお，後件には，가다（行く），오다（来る），떠나다（発つ），자다（寝る），앉다（座る），서다（立つ），일어나다（立ち上がる）などの自動詞が圧倒的に多く現われる(24)。同様の例のなかから出現頻度が2例以上のものを가，나，다…順に挙げ，‘前件：後件／前件の客体’で表す。ただし単一主体，単一動作に限る(25)（以下これに倣う）。

굽다/갈비를（焼く/カルビを），깔다/장판을（敷く/カーペットを），끼우다/탄창을（嵌める/弾窓を），닫다/모니터를（閉める/モニターを），닦다/몸을（拭く/体を），들다/점심을（食べる/昼を），마시다/커피를（飲む/コーヒーを），만나다：오다（会う：来る），만들다（作る），말하다：가다（言う：行く），먹다/약을（飲む/薬を），받다/연락을（もらう/連絡を），배우다（習う），삶다/오뎅을（煮る/おでんを），세수하다（洗顔する），쓰다/시를（書く/詩を），씻다/상처를（洗う/傷を），열다/문을（開ける/ドアを），읽다/애기를（読む/話を），자다：가다（寝る：行く），주다/물을（与える/水を），뵙다/지도교사를（お目にかかる），시키다/입원을 | *使*，앉히다（座らせる）| *使*，벗기다（脱がせる）| *使*，재우다（寝かせる）| *使*，태우다（乗せる）| *使*

(注) *自*は自動詞，*使*は使役動詞を意味する。使役は頻度とは関係なく挙げている。
(注) 上の用例中，後件（：の後に記入）が示されている場合，移動動作など後件が限定されることを示す。

以上の動詞類はすべて具体的な動作を表し，かつ動作後の主体が変化をしないもので，アスペクト的クラスは動作性動作動詞のうちの「主体非変

化動詞」に当たる。

3.3.1.2.　<様態>の하고

(5) 종업원이 잔을 들고 걸어왔다. {카프카 : 132}
(従業員がグラスを持って歩いてきた。)

(5) は '잔을 들다' (グラスを持つ) がいったん終了して，その結果のみが残るなかで——グラスを持った状態 (잔을 든 상태) で——걸어오다 (歩いてくる) が行われるので<様態>と解釈できる。同様の例を次に挙げる。

다물다/입을 (つぐむ/口を)，데리다/아이를 (連れる/子供を)，들다/총을 (持つ/銃を)，뜨다/눈을 (開く/目を)，메다/어깨에 (かける/肩に)，모시다/어머님을 (お連れする/母上を)，벌리다/팔을 (開く/腕を)，신다/구두를 (はく/靴を)，싣다/몸을 (乗せる/体を)，쓰다/수건을 (被る/タオルを)，안다/아이를 (抱く/子供を)，업다/아이를 (背負う/子供を)，웅크리다/몸을 (かがめる/体を)，입다/외투를 (着る/外套を)，짓다/표정을 (つくる/表情を)，타다/전차를 (乗る/電車を)，펴다/허리를 (伸ばす/腰を)，하다/얼굴을 (する/顔を)，等。

以上の動詞類はすべて具体的な動作を表し，かつ動作後の主体が変化するもので，アスペクト的クラスは動作性動作動詞のうちの「主体変化動詞」に当たる。

なお，<先行>と<様態>の意味区別の方法[26]について，後者の例 '잔을 들고 걸어왔다' (グラスを持って歩いて来た) の場合，'잔을 들었다' (グラスを持った) のように，前件がいったん終了し，後件걸어오다 (歩いてくる) を行う最中にも前件に対して '잔을 들고 있다' (グラスを持ている) と言える。一方<先行>の例 '아침을 먹고 떠나다' (朝御飯を食べて発つ) の場合は，'아침을 먹었다' (朝御飯を食べた) のように，前件が終了し，後件떠나다 (発つ) を行う最中に前件に対して '아침을 먹고 있

다'（朝御飯を食べている）とは言えない。[27]

3.3.1.3.　＜継起＞の하고

(6) 남의 신세 지는 걸 극도로 꺼리는 결벽증 정도로 이해하고 한가닥의 시골 연줄을 스스로 단념해버리고 있었다. {세상 : 46}
（人に世話になることを極度にいやがる潔癖症程度に理解して，唯一の田舎の親戚との縁を自ら断念してしまっていた。）

(6) は，이해하다（理解する）が先に起こり，そのことが継続するなかで단념하다（断念する）が起こっているので，＜継起＞と解釈できる。同様の例を次に挙げる。

{A類} 듣다/말을（聞く/言葉を），딛다/상처를（克服する/傷を），믿다/그를（信じる/彼を），보다（見る），생각하다（考える），안심하다（安心する），진정하다（落ち着く），짐작하다（推し量る），알다（知る），이해하다（理解する），等。{B類} 지우다/환영을（消す/歓迎を），갖다/기대를（持つ/期待を），느끼다/만족을（感じる/満足を），等。

(注) {A類} は，浜之上幸（1991）の言う「心理動詞」の例で，{B類} は「抽象性動作動詞」の例である。

以上の動詞類は，すべて具体的な動作を表さないもので，アスペクト的クラスは「状態性動作動詞」に当たる。[28]

3.3.1.4.　＜同時＞の하고

(7) 승주는 리어카를 밀고 지나가는 홍익회 판매원에게 맥주 두 병을 청한다. {세상 : 17}
（スンジュはリヤカーを押して通る共済会の販売員にビール2本を頼む。）

(7) は，'리어카를 밀다'（リヤカーを押す）と지나가다（通る）が同時に進行しているので＜同時＞と解釈できる[29]。同様の例を次に挙げる。

{A類} 끌다/나를（引っ張る/私を），끼다/해변을（沿う/海辺に），떠돌다/만주를（さまよう/満州を），먹다：살다（食べる：暮す），몰다/승용차를（運転する/乗用車を），밀다/리어카를（牽く/リヤカーを），비집다/틈을（こじ開ける/隙間を），지르다/소리를（叫ぶ），헤메다/거리를（さまよう/町を），等。

以上の動詞類は，すべて具体的な動作を表し，かつ動作後の主体が変化しないもので，アスペクト的クラスは動作性動作動詞のうちの「主体非変化動詞」に当たる。なお，＜同時＞の例に限って，前件に조잘대다，조잘거리다(べちゃくちゃしゃべる)のように，'反復' を表す語彙が現われる[30]。

以上の検討結果を表にまとめておこう。

【表1】하고있다のみを持つ動詞のアスペクト的クラスによる하고の意味分類

	動作性	主体変化	語彙例	実現意味
有局面動詞	+	−	먹다, 씻다, 받다	先　行
			몰다, 끌다	同　時
		+	들다, 입다	様　態
	−	×	알다, 보다	継　起

(注) ＋は持つ，－は持たない，×は存在しないことを表す。
'動作性' とは「動作性動作動詞」であるかどうかを示し，－は「状態性動作動詞」を意味する。

上の表1のように，「主体変化動詞」が하고を取ると＜様態＞になり，「状態性動作動詞」の場合は＜継起＞になる。例えば，'가방을 들다'（カバンを持つ）という主体変化動詞[31]は，'가방을 들고 있다'（カバンを持っている）と言ったとき，カバンを持った後の局面――主体変化後の局面――を表す動詞であり，この動詞類を取った場合は，主体が変化した後の結果が残るので，＜先行＞ではなく＜様態＞となる。

また，浜之上幸（1991：51）は，状態性動作動詞のアスペクト的特徴について「하고 있다の表す局面が動的な性格を持っておらず，局面の境界もはっきりしない。また，動作の終了後の局面を仮に想定したとしても，その局面において主体が客体との関係において何らかの変化を被ったかどうかを明確に確認することができない」と述べている。例えば，'사실을 알고 반대하다'（事実を知って反対する）と言ったとき，前件の'사실을 알다'（事実を知る）が先に起こってはいるが，その終了点を明確に確認できずに後件반대하다（反対する）が起こる。すなわち，알다（知る），믿다（信じる）のような動詞類が하고を取った場合は，前件は先に始まり，それが継続するなかでいつでも後件が起こり得る。このように＜様態＞と＜継起＞に関しては浜之上幸（1991）のアスペクト的クラスの枠組み内では意味と動詞との関与を見出すことができる。しかし「主体非変化動詞」には＜先行＞と＜同時＞が含まれ，この段階においては，これ以上の意味と動詞との関与を見出せない。

3.3.1.5. 主体非変化動詞の하고

主体非変化動詞が하고を取った場合，＜先行＞と＜同時＞の区分ができない。そこで，これら2つの意味と動詞との関与を見出せる基準を，動作が行われている現実の場所（以下，'現場'と言う）で動作を終えたとき，《지금 막 ～을 했다（たった今～をした)》と言い得るかどうかで現場終了の局面を持ち得る動詞と，現場終了の局面を持ち得ない動詞（以下，有現場終了動詞，無現場終了動詞と呼ぶ）とを規定し，その観点から明らかにしていく。

① 有現場終了動詞を取り＜先行＞の하고となる場合

(a) 밥을 먹고 갔다.（ご飯を食べて行った。）
(b) 손을 씻고 갔다.（手を洗って行った。）

(a)の'밥을 먹다'（ご飯を食べる）と(b)の'손을 씻다'（手を洗う）は，'지금 막 밥을 먹었다'（たった今終えた），'지금 막 손을 씻었다'

(たった今終えた) のように言い得る動詞である。すなわち，動作を終えたとき，《지금 막 ～을 했다 (たった今～をした)》と言い得る動詞類は，主体非変化動詞――主体変化後の局面を表さない――で，「有現場終了動詞」となる。よって，このような動詞類が하고を取ると，その現場終了の局面を受けて後件が行われ＜先行＞となるのである。[32]

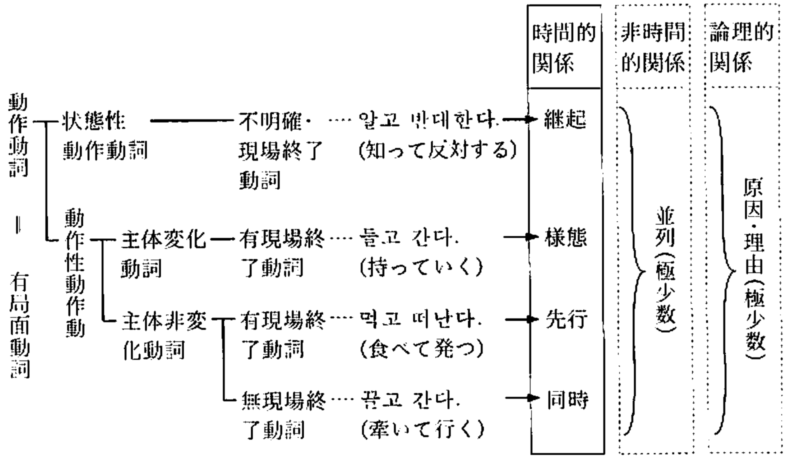
② 無現場終了動詞を取り＜同時＞の하고となる場合

(c) 차를 몰고 갔다. (車を運転して行った。)

(d) 리어카를 끌고 갔다. (リヤカーを牽いて行った。)

(c) の '차를 몰다' (車を運転する) と (d) の '리어카를 끌다' (リヤカーを牽く) は，'지금 막 차를 몰았다' (たった今車を運転した)，'지금 막 리어카를 끌었다' (たった今リヤカーを牽いた) のように，《지금 막 ～을 했다 (たった今～をした)》と言い得ない動詞である。[33] このように，主体非変化動詞で現場終了の局面を持たない「無現場終了動詞」の動詞類が하고を取ると，後件は前件の現場終了の局面を受けられず，前件の生起の局面を受けて＜同時＞になると考えられる。

【図1】하고있다のみを持つ有局面動詞が하고を取って実現する意味



3.3.1.6. 하고있다のみを持つ有局面動詞のアスペクト的特徴と하고の意味

以上3.3.1.での考察をまとめると図1のようになる。図1で示したように，하고있다のみを持つ動詞が単一主体の単一動作である，有局面動詞の場合，その圧倒的多数が時間的関係による＜先行＞＜様態＞＜継起＞＜同時＞の意味を表す(34)。

3.3.2. 하고있다形式のみを持つ動詞が해서を取る場合

まずは，하고있다形式のみを持つ動詞が하고を取って実現する意味ごとに，해서を取った場合を比較してみることにする。

なお，'쉰 밥을 먹어서 배가 아프다'（腐ったご飯を食べて／食べたからお腹が痛い）などのように，前件と後件が＜原因·理由＞となるものは，ここでは除いて，その他の意味について見てみることにしたい。

3.3.2.1. 하고を取り＜先行＞となる動詞が해서を取る場合

(8) 포장센터에 가서 예쁘게 싸고 반짝거리는 리본달고，아기 손바닥 만한 카드에다 …(생략)…. {꽃：124}
(包装センターに行って，綺麗に包んできらきら光るリボンをつけて子供の掌サイズのカードに…(省略)…。)

(9) 그 편지를 건빵 비닐봉지에 싸서 곱게 보관해두고 있었던 것이다. {별：102}
(その手紙を乾パンのビニール袋に包んで綺麗に保管しておいたものであった。)

(8) は，싸다（包む）が終了し，その結果が残らず(35)に리본달다（リボンをつける），が起こるので＜先行＞である。一方，(9) は싸다（包む）が終了し，その結果が主体ではないけれども，'手紙' すなわち客体には残るなかで보관하다（保管する）が起こるので，様態性を帯びているとはいえるが，(8) と比較すれば，싸다（包む）それ自体が보관하다（保管する）の手段となっており(36)，＜手段·方法＞の意味が強く表れていることは明白であろう。싸다（包む）は，主体非変化動詞のうちの「客体変化動詞(37)」——動

作後の主体が変化せずに，‘手紙が包まれた’のように，客体が変化させられている——に当たる。同様の動詞に，굽다（焼く），삶다（煮る），꺾다（折る），뽑다（抜く），세우다（立てる）があるが，これら客体変化動詞は変化した後の客体が次の後件の手段となりやすい。よって＜手段・方法＞の意味を実現すると思われる。

(10) 사기라니，누군 흙 파서 종이 사고 인쇄 돌리는 줄 알아？｛소는：288｝
(詐欺だって。土でも掘って紙を買って印刷機を回していると思っているのかしら。)
(11) 나긋나긋한 여자를 사서 붙여주려구 했는데 이리 돼서 안됐다.｛천사：262｝
(やさしい女性を買って，与えてあげようと思ったのだが，このようになって悪かった。)

(10) は，사다（買う）が終了し，その結果が主体に残らずに，‘인쇄 돌리다’（印刷機を回す）が起こるので＜先行＞である。これに対して，(11) の사다（買う）は，それ自体が붙여주다（つけてあげる）の手段となっている。よって＜手段・方法＞と認められる。同様の動詞に，받다（もらう），벌다（稼ぐ），빌리다（借りる），만나다（会う）があるが，これらは主体が客体を引き寄せる意味を持ち，その引き寄せられた客体が後件の＜手段・方法＞になりやすい。

(12) 내 저기 왕능 쪽으로 가서 쉬고 있을 테니 만나고 오지 그래.｛왕능：319｝
(私，あそこの王陵の方に行って，休んでくるから会ってくれば。)
(13)「저두 가겠습니다. 저녁 다섯시쯤 만나서 같이 가기루 하죠.」｛천사：247｝
(私も行きます。夕方5時ごろ会って一緒に行くことにしましょう。)

(12) は，만나다（会う）が終了し，その結果が残らずに，오다（来る）が起こるので＜先行＞である。これに対して，(13) の만나다（会う）は，'같이 가다'（一緒に行く）の手段となって，＜手段・方法＞と認められる。(12)，(13) の만나다（会う）はいわゆる対称動詞 (reciprocal verb)[38] で，主体と客体が出会うことで客体が主体に近寄っている。このような例も해서を取り＜手段･方法＞の意味を実現しやすい。なお，(8)，(10)，(12) の하고の例は，해서と言い換えることができない。(8) は，해서と言い換えることができると指摘した母語話者がいたが，文は成立しても実現する意味が＜手段・方法＞となってしまう。

さて，以上のように＜先行＞の하고となる動詞類が해서を取ると＜手段･方法＞となることを見てきたが，特に，(8)，(9) のような動詞類が해서を取ったものが＜手段・方法＞の全用例中75.7％も現われたことは注目に値する[39]。なお，これらの例は，母語話者8人に確認を取ったところ，すべてに＜手段・方法＞の意味が認められることが確かめられた[40]。

3.3.2.2.　하고を取り＜様態＞となる動詞が해서を取る場合

(14) 기타를 메고 나갔다. {케도：123}

（ギターをかついで出ていった。）

(15) 무거워서 들지 못하고 어깨에 메서 옮겼어요. {정현숙 1999：313}

（重くて持てないので，肩にかけて運びました。）

(14) は，메다（かつぐ）が終了し，その結果が残るなかで나가다（出ていく）が起こるので＜様態＞である。(15) は，메다（かける）が終了して，その結果が主体に残るなかで옮기다（移す）が起こっているので様態性を帯びているともいえるが，(14) と比較すれば，메다（かける）それ自体が옮기다（移す）の手段となって，＜手段･方法＞の意味が強く表れている。なお，(14) の하고は，해서と言い換えることはできない。また，同様の例は極めて少なく，作例を作ることも後件に制限を受けるなど容易ではない[41]。これらの主体変化動詞は，하고に比べ해서を取りにくいと考えられる[42]。

3.3.2.3.　하고を取り＜継起＞となる動詞が해서を取る場合

(16) 패스트 푸드점에서 만나자고 하길래 나는 그곳에서 점심을 먹자는 뜻으로 알고 스파게티를 주문했었다.｛카프카：136｝
(ファーストフード店で会おうと言うから，私はそこで昼でも食べようという意味だと思って，スパゲッティを注文したのだった。)

(17) 이거 자네가 알아서 지금 누구한테 주거나 아니면 후세 영원 속에 부탁해두었다가 …(생략)….｛나무남자：147｝
(これ君が判断して誰かにあげるか，でなければ後世の永遠の中に頼んでおいて…(省略)…。)

(16) は，알다（思う）が先に起こり，それが継続するなかで돌아가다（帰る）が起きているので＜継起＞となる。しかし（17）の알다は‘判断する’という意味であり，주다（あげる）の前提条件となっており，해서の実現する意味は＜条件＞となる。なお，(16) の하고は，해서と言い換えることはできない。また，このような動詞類が해서を取る実例は極端に少なく，作例においても“알아서하다”（判断してする）という決まったものに限られるなど，하고に比べ해서を取りにくいと考えられる。

3.3.2.4.　하고を取り＜同時＞となる動詞が해서を取る場合

(18) 승주는 리어카를 밀고 지나가는 홍익회 판매원에게 ….｛세상：17｝
(スンジュはリヤカーを押して通る共済会の販売員に…。)

(19) 승주는 무거운 리어카를 밀어서 창고에 집어넣었다.｛作例｝
(スンジュは重いリヤカーを押して，倉庫に入れておいた。)

(18) は，밀다（押す）と지나가다（通る）が同時に進行しているので，＜同時＞である。この点は（19）も同様に考えられる。しかし，(19) は，밀다（押す）が‘창고에 집어넣다’（倉庫に入れておく）の手段となっており，＜手段・方法＞の意が強く出ている。なお，(18) 하고は，해서と言い換えることはできない。また，このような動詞類が해서を取る実例は極めて少なく，作例においても後件が制限を受けるなど，하고に比べ해서

を取りにくいと考えられる。特に実例においては，‘경어를 써서 말한다’（敬語を使って話す），‘악을 써서 묻는다’（わめいて訊く）のような後件に言語活動動詞が目立ち[(43)]，몰아서（牽いて），밀어서（押して）のような，“操縦”を意味する例は現われない。

3.3.2.5. 하고を取り＜並列＞にしかならない動詞が해서を取る場合

(20) 걷고 또 걸었다（歩いて，また歩いた）{은어 : 214}
(21) *걷고 가다（歩いて行く）
(22) 여기까지 어떻게 왔냐구요? 믿을 수 없겠지만 걸어서 왔습니다. {천지간 : 23}
（ここまでどうやってきたかって？ 信じられないかもしれないけど歩いて来ました。）

걷다（歩く）のような動詞は，(20) のように하고を取ると＜並列＞にしかならず，(21) のような文は成立しない。しかし，(22) のように，해서を取れば，걷다（歩く）が오다（来る）の方法となり＜手段・方法＞となる[(44)]。
3.3.2. での考察をまとめると次のようになる。

【表2】하고있다のみを持つ動詞が해서を取って実現する意味

하고実現意味(時間)	하고を取る語彙例	主体変化	客体変化	해서を取る場合(論理的) 手段・方法，条件 (311例中の百分率)	原因・理由
先　行	먹다, 읽다	−	−	(1.3%)	極少数
	(客)따다, 뽑다, (近)받다, 만나다		＋	(75.7%)	
様　態	입다, 들다	＋	＋	(1.9%)	
継　起	알다, 믿다	×	＋	(7.7%)	
同　時	몰다, 끌다	−	−	(7.0%)	
並列(非時間)	걷다, 달리다, 날다	−	×	(6.4%)	

(注) ＋は持つ。−は持たない。×は存在しないことを表す。

また，(客) は客体変化動詞，(近) は主体が客体を近づけたりする動詞類を意味する。

上の表 2 で示しているように，하고있다のみを持つ動詞が해서を取ると，すべて＜手段・方法＞＜原因・理由＞＜条件＞などの論理的関係による意味のみを実現する。特に，＜手段・方法＞を表すもので，客体変化動詞，主体が客体を近づけたりする動詞類が 4 分の 3 を占めることは非常に興味深い。

また，＜継起＞の하고の場合に限って，해서を取ると＜条件＞となる。さらに以上の動詞類はすべて＜原因・理由＞となり得るが，実例は極めて少ない。

3.4. 해있다形式を持つ動詞と해서，하고

해있다形式を持つものには，하고있다，해있다形式を共に持つもの，해있다形式のみを持つもの，の 2 種類があったが，本節では両者を合わせて論じる。

3.4.1. 해있다形式を持つ動詞が해서を取る場合

3.4.1.1. 主体変化動詞と해서

浜之上幸 (1991:21) は，「主体変化動詞[(45)]」の主体の変化とは「空間的位置の変化，量的な変化，物理的性質の変化，姿勢の変化」などを指すものが多いと述べる。ところが，空間的位置の変化を表すなかで移動動詞[(46)]が해서を取ると相対的に先行性を強く感じると述べる母語話者が多い。

① ＜先行・様態＞の해서

하고있다，해있다形式を共に持つ動詞で，가다（行く）のような移動動詞が해서を取って＜先行＞を表すといわれている次のような例がある[(47)]。

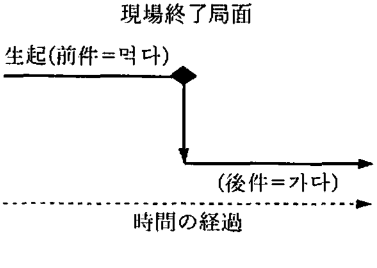
(23) 회사에 가서 밥을 먹었다.（会社に行って御飯を食べた。）

(23) は，前件 '회사에 가다'（会社に行く）は，'회사에 가고 있다'（会社に行きつつある）という動作が先に終了した後，'밥을 먹다'（ご飯を食べる）が行われている点は '先行的' である。ところが，(23) の해서の例は，前件 '회사에 가다'（会社に行く）が終わって直ちに後件が起こるのではなく，前件の動作 '회사에 갔다'（会社に行った）終了後，その結果が残るなか，すなわち，'회사에 가 있는 상태'（会社に行っている状態）で，後件 '밥을 먹다'（ご飯を食べる）が行われており，'様態的' な意味が強く表れる。以上のように，移動動詞に限り，'先行的' な面，'様態的' な面をとも持つため＜先行・様態＞とした。次の하고の例と比較してもらいたい。

(24) 밥을 먹고 회사에 갔다.（御飯を食べて会社に行った。）

(24) は，'밥을 먹다'（御飯を食べる）という動作が終了し，その結果が残らずに '회사에 가다'（会社に行く）が行われているので＜先行＞である。上の 2 例の違いを図で示すと次のようになる。

【図 2】＜先行＞の하고



【図 3】＜先行・様態＞の해서

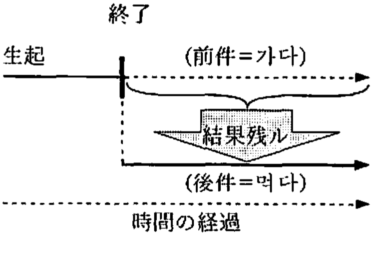


図 2 と，3 との比較からも明らかなように，両者は後件が前件をどのように受けるかで異なっている。図 2 は，前件が終了し，その結果が残らないで後件を行っている。一方，図 3 は，前件가다（行く）が終了して直ちに後件が始まるのではなく，가다（行く）の動作後の結果が継続するなかで '밥을 먹다'（ご飯を食べる）ということが起こる。したがって，해서

は動作の終了の局面を受けるのではなく，動作終了後の結果が継続する局面を受けていると考えられる。なお，(23) の해서の場合，後件 ‘밥을 먹다’（ご飯を食べる）が行われている最中にも前件に対して ‘회사에 가 있다’（会社に行っている）と言える。[48]

② <様態>の해서

(25) 그는 자리에 앉아서 정면을 보았다. {길 위에 : 333}
(彼は，席に座って正面を見た。)

(25) は앉다（座る）が終了し，その結果が残るなかで ‘정면을 보다’（正面を見る）が行われるので<様態>となる。ただし，前件앉다（座る）が終了して直ちに後件が始まるのではなく，앉다（座る）の動作後の結果が継続するなかで ‘정면을 보다’（正面を見る）ということが起こる。[49] したがって，해서は動作の終了の局面を受けるのではなく，動作終了後の結果が継続する局面を受けていると考えられる。

3.4.1.2. 状態性動作動詞と해서

浜之上幸（1991 : 34）は，状態性動作動詞と分類したなかに하고있다，해있다形式が同じ局面を表し「2 つの形式は局面の対立ではなく動的：静的というニュアンスの対立をなす」という特徴を持つと述べる。具体的に説明すれば，엎드리다（うつぶす）は，‘엎드리고 있다’（うつぶせている），‘엎드려 있다’（うつぶせてしまっている）の両者を持つが，話し手が엎드리다（うつぶす）の局面を動的とみなせば，‘엎드리고 있다’ を用い，静的とみなせば，‘엎드려 있다’ を用いるということである。

(26) 아이들은 요람 속에 엎드려서 오직 칼칼 웃으며 알맞게 살찌며 자라고 있을 뿐이었다. {악 : 140}
(子供たちは，揺りかごの中でうつぶせになってひたすらけらけら笑いながら育っているだけであった。)

(26) は，엎드리다（うつぶす）が終了し，その結果が残るなかで‘깔깔 웃다’（けらけら笑う）が起こるので＜様態＞となる。[50] したがって，「状態性動作動詞」の해서も動作の終了の局面を受けるのではなく，動作終了後の結果が継続する局面を受けていると考えられる。なお，上で見てきた(23)，(24) の例と同じように，(26) の例も後件웃다（笑う）が行われている最中にも前件に対して‘엎드려 있다’（うつぶせている）と言える。

以上，主体変化動詞のうち，移動動詞に限り＜先行・様態＞となる。そして移動動詞以外の主体変化動詞，状態性動作動詞はすべて＜様態＞となる。また，(23)，(24)，(26) の해서は하고と言い換えることはできない。

また，＜様態＞となる動詞類は，3.4.1.2. で述べた状態性動作動詞，また 3.4.1.1. で述べた，主体変化動詞の앉다（座る），서다（立つ）など姿勢を意味する動詞類の他にも次のようなものがある。‘풀이 죽다’（気落ちする），썩다（腐る），숨다（隠れる），붙다（くっつく）などの固有語の自動詞，개발되다（開発される）などの擬似接尾辞，되다がついたもの，名詞的要素＋動詞，形容詞＋지다，動詞＋지다などがある。[51]

3.4.2. 해있다を持つ動詞が하고を取る場合

(27) 대만도 가고，하와이도 가고，유럽도 가 봐야지요. {길 : 178}
　(台湾も行き，ハワイも行き，ヨーロッパも行ってみなくちゃ。)

(28) 그런데도 모두가 늙고，약해지고 추해지고 병들어요. {해질녘 : 309}
　(それでも，皆が老いて，弱くなって醜くなって，汚くなって病気になるのです。)

(29) 지치고 분한 어머니…. {악령 : 153}
　(くたびれて悔しいお母さん…。)

(30) 기진한 몸을 끌고 집을 도착했을 때 남편은 이미 나가고 없었다. {멀리 : 152}
　(くたびれた体を引きずって家に到着したとき，夫はすでに出て行っていなかった。)

(27) は，가다（行く）という動作の単純な繰り返しであり，＜並列＞と

なる。(28) の약해지다（弱くなる）と추해지다（汚くなる），(29) の지치다（くたびれる）と분하다（悔しい）も，前件と後件が類似した状態を繰り返すのみなので＜並列＞となる。以上のように，해있다形式を持つ動詞が하고を取ると，ほとんどが＜並列＞となる。(30) は，나가다（出かける）が原因で없다（いない）となっており＜原因・理由＞であるが，このような例は極めて少数であった。

3 で述べてきたことをまとめると，次のようになる。

【表 3】해있다を持つ動詞が해서，하고を取って実現する意味

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">動作性</td><td rowspan="2">主体変化</td><td rowspan="2">하고있다</td><td rowspan="2">意志性</td><td colspan="3">해서の実現意味</td><td colspan="2">하고の実現意味</td></tr>
<tr><td colspan="2">時間的関係</td><td>論理的関係</td><td>非時間的関係</td><td>論理的関係</td></tr>
<tr><td rowspan="5">해있다を持つ</td><td rowspan="4">＋</td><td rowspan="4">＋</td><td rowspan="2">＋</td><td>＋</td><td>(移動動詞のみ)
가서 먹는다.</td><td>先行・様態</td><td rowspan="5">原因・理由
(非常に多い)</td><td rowspan="5">並列
(多数)</td><td rowspan="5">原因・理由
(極少数)</td></tr>
<tr><td>－</td><td>떨어져서 나뒹굴다.</td><td rowspan="4">様態</td></tr>
<tr><td rowspan="2">－</td><td>－</td><td>풀이 죽어서 엎드려 있다.</td></tr>
<tr><td>＋</td><td>앉아서 일한다.</td></tr>
<tr><td>－</td><td>±</td><td>＋</td><td>＋</td><td>엎드려서 웃는다.</td></tr>
</table>

(注) 浜之上幸（1991:35）は，엎드리다（うつぶす）は状態性動作動詞で，'엎드리고 있다' は主体非変化動詞的で，'엎드려 있다' は主体変化動詞的であるとする。

上の表 3 からもわかるように，해있다形式を持つ動詞は，移動動詞のみ해서を取ると時間的関係による意味の＜先行・様態＞となり，他に動作性動作動詞，状態性動作動詞であるか，意志動詞，無意志動詞であるかにかかわらず，해서を取って時間的関係による意味の＜様態＞となり得る。また，以上の例は，すべて論理的関係による意味の＜原因・理由＞となり得る。特に，権在淑（1994：31）でも述べているように，無意志動詞は＜原因・理由＞となりやすく，実例も多く現われる。しかし，以上の해있다形式を持つ動詞が하고を取ると，ほとんどが非時間的関係による意味の＜並列＞となり，まれに論理的関係による意味の＜原因・理由＞となり得る。

3.5. 하고있다，해있다形式を共に持たない動詞と하고，해서

하고있다，해있다形式を共に持たない「状態動詞[52]」が하고，해서を取る用例は，極わずかである。결혼하다（結婚する），이혼하다（離婚する），닮다（似る）の動詞類について，野間秀樹（1993a：49）は「単一主体の単一動作において‘하기시작하다’（し始める），‘하는중이다’（している最中だ）が両方とも不可能な動詞」を無局面動詞としている。以上の無局面動詞類は，“(31) 요즘에 와서 내 친구들이 잇달아 결혼하고 있다.｛野間秀樹（1993a：30)｝（最近になって，私の友達が続いて結婚している。)”の例のように，複数主体，複数動作という条件においては有局面動詞化が可能であるとしている。

また，無局面動詞うち，有局面動詞化が不可能な動詞類もある。“(31) *요즘 젊은이들은 성형수술로 연예인을 닮고 있다.（最近の若い人達は，整形手術で芸能人に似ている。)”の例のように，닮다（似る），맞다（合う），‘기가 막히다，기가 차다’（あきれる）などの動詞類は複数主体の複数動作であっても有局面動詞化（‘하고있다’形式を持つ）が不可能である。しかし，“(32) 요즘 젊은이들은 성형수술로 연예인을 닮아 가고 있다.（最近の若い人達は，整形手術で芸能人に似てきている。)”のように，‘닮아 가고 있다’（似てきている）は可能であるが，(32) のように，‘*닮고 있다’（似ている）は不可能である。すなわち，複数主体の複数動作においても有局面動詞化が不可能な動詞類が存在することになる。하고있다，해있다形式を共に持たない無局面動詞においては，有局面動詞化が可能であるか不可能であるかが，하고，해서を取って実現する意味に大きく影響する。

3.5.1. 無局面動詞の有局面動詞化が可能な場合の하고，해서

まず，無局面動詞の有局面動詞化が可能な動詞類は，(a) 끄다（消す），놓다（置く）などの動詞と，(b) 이혼하다（離婚する），결혼하다（結婚する）などの動詞，の2つに分けられる。

3.5.1.1. 無局面動詞の有局面動詞化が可能な動詞を取る하고

(a) 끄다（消す), 놓다（置く）などの動詞類と, (b) 이혼하다（離婚する), 결혼하다（結婚する）などの動詞類が하고を取ると時間的な関係による意味として (a) は＜先行＞, (b) は‘様態性’を帯びる＜先行＞となり, 論理的な関係による意味としては＜原因・理由＞となり得るが, 実例は現われなかった。

① ＜先行＞の하고

(34) 사물함 위에 놓고 휑하니 밖으로 나갔다. {천사 : 267}
(私物箱の上に置いてあっという間に外に出ていった。)

(34) の놓다（置く）は, 単一主体, 単一動作においては하고있다形式を持ち得ない, 無局面動詞である。しかし,‘많은 사람들이 촛불을 잇달아 탁자위에 놓고 있다’(多くの人が蝋燭を次々と食卓の上に置いている) のように, 複数主体, 複数動作においては하고있다形式を持ち得る。すなわち, 無局面動詞から有局面動詞化が可能な動詞といえる。また, (34) の놓다（置く）は, ≪지금 막 놓았다／たった今, 置いた≫と言い得る「現場終了動詞」であり, その現場終了の局面を受けて後件が起こり, かつ主体に結果が残らないので＜先行＞となる。なお, (34) の例は해서と言い換えることはできない。同様の例を以下に挙げる。

그만두다（やめる), 그치다/비가（止む/雨が), 끄다（消す), 놓다/수화기를（置く/受話器を), 두다（置く), 마치다/검사를（終える/検査を), 박차다（蹴飛ばす), 버리다/칼（捨てる/ナイフ), 빼다/술집만（除く/酒場だけ), 뿜다/불을（噴く/火を), 켜다/불을（点ける/電気を), 끝나다/시험（済む/試験), 끝내다/근무를（終える/勤務を), 等。

以上の動詞類は, 해서で作例を作ることが容易ではなく, 하고に比べ해서を取りにくいと考えられる。

② '様態性' を帯る＜先行＞の하고

(35) 남자 : 그 땐 나도 과감히 이혼하고 당신과 결혼한다니까! {마 : 38}
(男:そのときは,私も思いきって離婚してあなたと結婚するってば。)

(36) 결혼하고 아이 낳고 살림 사는 것만으로 충분히 즐겁다고 하는데 ….
{별새 : 271}
(結婚して子供を産んで,暮らしを営むことだけでも十分に楽しいというんだが…)

(35) の이혼하다（離婚する),(36) の결혼하다（結婚する）は,(31) で見てきたように,複数主体,複数動作という条件においては,有局面動詞化が可能な動詞である。ところが,これらの動詞は現場終了の局面を持ち得ない「無現場終了動詞」である点が (34) の動詞類と異なる。

また,(35) の이혼하다（離婚する),(36) の결혼하다（結婚する）は,それぞれの事態が終了して,後件が起こるので＜先行＞である。ところが,以上の例は,それらが終了した結果が——夫婦関係を解消した,または夫婦関係を結んだ状態が——残るなかで後件が起こるというニュアンスをも持つ。したがって,'様態性' を帯びる＜先行＞といえよう。[(53)] なお,以上の動詞類は多くの母語話者によると,微妙なニュアンスの差はあるが,해서と無理なく言い換えが可能であるという。その際,하고を取る場合の方が '先行性を強く感じる' と多くの母語話者は指摘する。同様の例は次の通りである。

입학하다（入学する),졸업하다（卒業する),취직하다（就職する),성공하다（成功する),실패하다（失敗する）等。

3.5.1.2. 無局面動詞の有局面動詞化が可能な動詞を取る해서

(a) 끄다（消す),놓다（置く）などの動詞類と,(b) 이혼하다（離婚する),결혼하다（結婚する）などの動詞類が해서を取ると (b) のみが時間的な関係による意味として '先行性' を帯びる＜様態＞となる。論理的関係による意味としては＜原因・理由＞となり得るが実例は表れなかった。

③ '先行性' を帯びる<様態>の해서

前述の (2) の '様態性' を帯びた<先行>の하고の動詞類が，해서を取った場合を見てみよう。

(37) 남자 : 좋아！ 그렇담 이제 이혼해서 새 출발을 하자구！ {마 : 47}
　(男：よし！それなら，これから離婚して新しく出発しようよ！)

(38) 신희， 내 아름다운 신희. 나와 결혼해서 행복해얄텐데 어떡하지.
　{못다 : 315}
　(シニ，私の美しいシニ。私と結婚して幸せでなければならないのにどうしよう。)

(37) 이혼하다 (離婚する)，(38) は결혼하다 (結婚する) という出来事が終了して，それぞれの後件が起こる点では (35)，(36) と同じである。ところがこれらの例は，해서と結合した場合，様態的ニュアンスが強く感じられると，多くの母語話者は指摘する。'先行性' を帯びる<様態>といえるであろう。

3.5.2. 無局面動詞の有局面動詞化が不可能な場合の하고，해서

上の (32) の例で見てきたように，無局面動詞から有局面動詞化が不可能な닮다 (似る)，맞다 (合う)，'기가 막히다，기가 차다' (あきれる) などの動詞類がある。

3.5.2.1. 無局面動詞の有局面動詞化が不可能な動詞を取る하고

これらの動詞類は，하고を取ると非時間的関係による意味の<並列>となり，論理的関係による意味として<原因・理由>となり得るが実例は表れなかった。

① <並列>の하고

(39) 딸아이는 아빠를 닮고 아들은 엄마를 닮았다. {作例}
　(娘はパパに似て，息子はママに似た。)

(39) は，前後件の主体が異なり，単に 2 つの事態を羅列しているにすぎないので＜並列＞となる。

3.5.2.2. 無局面動詞の有局面動詞化が不可能な動詞を取る해서

これらの動詞類が해서を取ると時間的関係による意味として＜様態＞となり，論理的関係による意味として＜原因・理由＞となり得る。

① ＜様態＞の해서

(40) 남자：(기가 막혀서) 왜 그런 곳으로 갔지? {마주：47}
(男：(あきれて) 何故そんなところに行ったの。)

(40) は＜様態＞と解釈される。これはト書きなどに現われるもので出現頻度は極端に少ない。

② ＜原因・理由＞の해서

次のような前件と後件が因果関係を持つ＜原因・理由＞はしばしば現われる。

(41) 고모： …(생략)… 죽은 에미 닮아서 은근히 바람기가 세다니까!
{혹시：2}
(伯母さん： …(省略)… 死んだ自分の母に似て結構浮気ぐせがあるのね！)

4. 動詞のアスペクト的特徴と하고，해서との関連性

4.1. 하고を取る動詞のアスペクト的特徴と意味

하고を取る動詞のアスペクト的特徴と意味との関連性を表にまとめると次のようになる。

【表4】動詞のアスペクト的特徴による하고の意味

<table>
<tr><th rowspan="2">アスペクト形式</th><th colspan="6">アスペクト的クラスの分類</th><th rowspan="2">時間的関係の意味(用例)</th><th rowspan="2">非時間的関係の意味(動詞類)</th><th rowspan="2">論理的関係の意味</th></tr>
<tr><th>動作、状態</th><th colspan="2">有局面，無局面</th><th>動作性，状態性</th><th>主体変化</th><th>現場終了</th></tr>
<tr><td rowspan="4">≪1≫ 하고있다のみを持つ</td><td rowspan="5">動作動詞</td><td colspan="2" rowspan="4">有局面</td><td>状態性動作</td><td>関係なし</td><td>不明確現場終了</td><td>継起 (알고 반대하다)</td><td rowspan="8">並列 (닮다，맞다)(오다，가다)</td><td rowspan="8">原因・理由</td></tr>
<tr><td rowspan="4">動作性動作</td><td>主体変化</td><td rowspan="2">有現場終了</td><td>様態 (들고 가다)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">主体非変化</td><td>先行(씻고 오다)</td></tr>
<tr><td>無現場終了</td><td>同時 (끌고 가다)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">≪2≫ 하고있다・해있다共に持たない</td><td rowspan="3">無局面</td><td rowspan="2">有局面化可能</td><td>有現場終了</td><td>先行 (끄고 가다)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">状態動詞</td><td rowspan="2">関係なし</td><td rowspan="2">関係なし</td><td>無現場終了</td><td>先行'様態性'を帯びる(결혼하고)</td></tr>
<tr><td>有局面化不可能</td><td rowspan="2">現場終了性を問わない</td><td>関係なし</td></tr>
<tr><td>≪3≫ 해있다を持つ</td><td>動作動詞</td><td colspan="2">有局面，無局面を問わない</td><td>動作性動作</td><td>主体変化</td><td>関係なし</td></tr>
</table>

≪1≫하고있다形式のみを持つ動詞が하고を取る場合

①単一主体で単一動作の하고있다形式を持つ有局面動詞は，＜先行＞＜様態＞＜継起＞＜同時＞という時間的関係による意味を実現し，하고を取る動詞のアスペクト的特徴と意味との関連性は，＜先行＞……現場終了の局面を持ちその結果が残らない動詞，＜様態＞……現場終了の局面を持ちその結果が残る動詞，＜継起＞……現場終了の局面が不明確な動詞，＜同時＞……現場終了の局面を持たない動詞となる。②＜先行＞＜様態＞となる場合，前件動詞の持つ現場終了の局面を受けて後件が起こる。＜継

起＞は前件が先に起こってそれが継続するなかで後件が起こり，後件は前件をどこからでも受けることができる。しかし，＜同時＞となる場合は，前件動詞の生起の局面を受けて後件が起こる。③また，非時間的関係による意味として＜並列＞，論理的関係による意味として＜原因・理由＞が可能だが，極めて少ない。

≪2≫하고있다形式，해있다形式を共に持たない動詞が하고を取る場合

①単一主体の単一動作で하고있다形式，해있다形式を共に持たない無局面動詞は，複数主体の複数動作において有局面動詞化が可能な場合は，時間的関係の意味を実現し，(a) 끄다（消す）などの動詞は＜先行＞，(b) 결혼하다（結婚する）などの動詞は‘様態性’を帯びた＜先行＞となる。②(c)‘기가 막히다’（あきれる）のような有局面動詞化が不可能な動詞は，非時間的関係の意味として＜並列＞となる。③論理的関係の意味としては，(b) のみが＜手段・方法＞となり得，＜原因・理由＞はいずれも可能だが，特に (c) の動詞類がなりやすい。

≪3≫해있다形式を持つ動詞が하고を取る場合

有局面動詞，無局面動詞を問わず，時間的関係による意味は実現しない。主に，非時間的関係による実現意味として＜並列＞となり，まれに論理的関係による意味として＜原因・理由＞となる。

4.2. 해서を取る動詞のアスペクト的特徴と意味

해서を取る動詞のアスペクト的特徴と意味との関連性を表にまとめると表5のようになる。

≪3≫해있다形式を持つ動詞が해서を取る場合

①有局面動詞，無局面動詞であるか，動作性動作動詞，状態性動作動詞であるかに関わらず，時間的関係の意味を実現するものは，移動動詞のみ해서を取ると＜先行・様態＞となり、他はすべて＜様態＞となる。それらを取る動詞のアスペクト的特徴は，＜先行・様態＞及び＜様態＞……動作終了後その結果が継続する動詞である。②前件と後件が因果関係を持って結合していれば，論理的関係による意味として＜原因・理由＞となり得る。

【表 5】動詞のアスペクト形式による해서のまとめ

<table>
<tr><td rowspan="2">アスペクト形式</td><td colspan="5">アスペクト的クラスの分類</td><td rowspan="2">時間的関係の意味</td><td rowspan="2">論理的関係の意味</td></tr>
<tr><td>動作、状態</td><td>有局面,無局面</td><td>動作性,状態性</td><td>主体変化</td><td>現場終了</td></tr>
<tr><td rowspan="2">≪3≫해있다を持つ</td><td rowspan="2">動作動詞</td><td rowspan="2">有局面,無局面を問わない</td><td>動作性動作</td><td>主体変化</td><td rowspan="3">現場終了性を問わない</td><td rowspan="2">先行・様態
(移動動詞のみ→가서 먹다, 와서 자다)
様態
(앉아서 먹다)
(엎드려서 웃다)</td><td rowspan="4">原因・理由</td></tr>
<tr><td>状態性動作</td><td>関係なし</td></tr>
<tr><td rowspan="3">≪2≫하고있다・해있다共に持たない</td><td rowspan="2">状態動詞</td><td>有局面化不可能</td><td colspan="2" rowspan="2">関係なし</td><td>様態
(기가 막혀서)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">有局面化可能</td><td>無現場終了</td><td>様態'先行性'を帯びる
(결혼해서 행복을 찾다)</td></tr>
<tr><td>動作動詞</td><td rowspan="3">動作性動作動詞</td><td>主体非変化
(끄다)</td><td rowspan="3">有現場終了</td><td>関係なし</td><td rowspan="3">原因・理由、手段・方法</td></tr>
<tr><td rowspan="3">≪1≫하고있다のみを持つ</td><td rowspan="3">動作動詞</td><td rowspan="3">有局面</td><td>主体変化
(듣다)</td><td rowspan="3">関係なし</td></tr>
<tr><td>主体非変化
(먹다)</td></tr>
<tr><td>状態性動作(알다)</td><td>関係なし</td><td>不明確現場終了</td><td>条件
原因・理由</td></tr>
</table>

(注)≪ ≫の中の番号は表 4 の番号に対応している。

≪2≫하고있다形式，해있다形式を共に持たない動詞が해서を取る場合

①単一主体の単一動作で하고있다形式，해있다形式を共に持たない無局面動詞は，複数主体の複数動作において有局面動詞化が不可能な場合，時

間的関係の意味を実現し，(c)‘기가 막히다’（あきれる）のような動詞は＜様態＞となる。

②また，(b) 無局面動詞から有局面動詞化が可能な動詞類のうち，결혼하다（結婚する）などの無現場終了の動詞類は，時間的関係の意味を実現し，‘先行性’を帯びる＜様態＞となるが，(a) 끄다（消す）などの有現場終了の動詞類は，時間的関係の意味を実現しない。③動詞の局面動詞化の有無を問わず，前件と後件が因果関係を持って結合していれば，論理的関係による意味として＜原因・理由＞となり，(a)，(b) の有局面動詞化が可能な動詞に限って＜手段・方法＞となり得る。

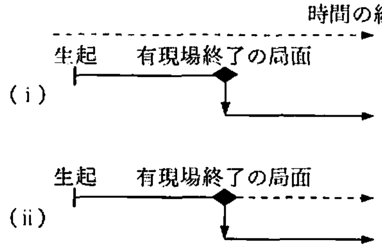
≪1≫하고있다形式のみを持つ動詞が해서を取る場合

① 論理的関係の観点による意味のみを実現し，すべて＜手段・方法＞となり，前件と後件が因果関係を持って結合していれば＜原因・理由＞となり得る。しかし，後者の実例は極めて少ない。

5. 하고，해서の機能

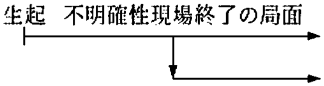
5.1. 時間的関係の意味による하고の機能

以上の分析結果を踏まえて，最後に하고及び해서の機能について述べることにする。하고は，하고있다形式のみを持つ動詞と結合して＜先行＞＜様態＞＜継起＞＜同時＞という時間的関係の意味を実現することを見てきた。これを概念図で示すと次のようになる。

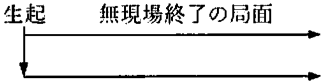


先行…밥을 먹고 간다.
（ご飯を食べて行く。）

様態…가방을 들고 간다.
（カバンを持って行く。）

(iii) 

継起…사실을 알고 웃는다.
(事実を知って笑う。)

(iv) 

同時…리어카를 끌고 간다.
(リヤカーを牽いて行く。)

以上の概念図のごとく，（i）と（ii）の<先行>と<様態>は前件動詞の現場終了の局面を受け，前者はその結果が残らず，後者はその結果が残る点で分けられる。(iii）<継起>は，前件が先に始まりそれが継続するうちの不明確な局面を後件は受けることができる。(iv）<同時>は，現場終了の局面を持たない動詞で，前件動詞の生起の局面を後件は受ける。

以上の点から，動作動詞のうち，하고있다形式のみを持つ有局面動詞（有局面動詞化が可能な動詞も含む，以下省略）を取る하고は“前件動詞の生起～終了局面のある一点を受ける”と推測できる。

一般に하고においては，後件に移動動詞がきて<先行><様態><継起><同時>を表し得る。ところが，3.1.3.5で確かめたように，後件に移動動詞がきて文が成立しなくなる動詞類が存在する。

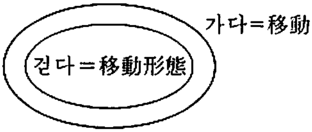
(42) 차를 몰고 가다（車を運転して行く）
(43) *걷고 가다（歩いて行く）

‘차를 몰다’（車を牽く），걷다（歩く）はいずれも하고있다形式のみを持ち現場終了の局面を持たない動詞であるから，하고を取った場合<同時>となるはずである。ところが（42）は<同時>であるが（43）は成立しない。この理由について，先に提示した“하고は前件動詞の生起～終了局面のある一点を受ける”に即して考えると，次のように説明できる。

(42）において，主体は車を運転しつつ行くことができる。つまり，‘차를 몰다’（車を牽く）は“操縦”であり，가다（行く）は“移動”であり，主体が別々に行える動作である。それに対して，걷다（歩く）は“移動形

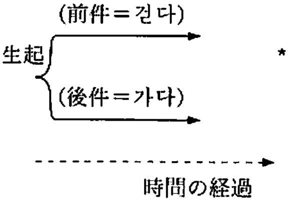
態"，가다（行く）は"移動"の範疇に入り，걷다（歩く）動作は가다（行く）動作に包含されてしまうので，主体が2つの動作を別々に行えない。この2つの動詞の関係を図示すると次のようになる。

【図4】移動形態動作⊂移動動作



걷다（歩く）⊂가다（行く）であれば，2つの動作は一体化しており，生起局面は1つしか存在し得ないので，前件動作の生起の局面を後件が受けるということはあり得ないのである。したがって，(43) は非文となると考えられる。(43) を図示すると次のようになる。

【図5】生起局面の一体化



*걷고 가다(歩いて行く)

上図5のように，"～し始める"という生起局面が一体化しているので，後件が前件の生起局面を受けることが不可能となると考えられる。

5.2. 非時間的関係による하고の機能

하고は，アスペクト形式と関係なくすべての動詞や形容詞，存在詞，指定詞の品詞を問わず取ることができ，その際＜並列＞となる。

(44) 돈 생기고 임 생기는데！｛마주：42｝
　（お金が出来て，恋人が出来るのに！）

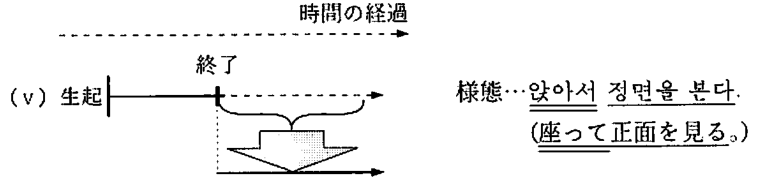
(45) 그 가운데를 흐르는 길고 밝은 강. {서부 : 111}
(その中を流れる長くて澄んだ川。)
(46) 진짜란 가고 옴이 없어. 있고 없고가 없어. {그것은 : 222}
(本物とは，行ったり来たりすることがない。あり，なしがない。)
(47) 창조적이고 비판적인 사고는 오히려 짐이 되었다. {별 : 85}
(創造的で，批判的な思考はむしろ荷物になった。)

(44)，(45)，(46)，(47) のように，前件と後件をたんに列挙して表せる機能，すなわち“羅列”の機能がある。

また，論理的関係による意味を実現するのは，実際は“羅列”する機能から派生的に実現したと考える。上に挙げた (30) の ‘남편은 이미 나가고 없었다’ (夫はすでに出て行っていなかった) は<原因・理由>の例，前件と後件がたんに，因果関係を持って結合されている。実際に，このような하고の<原因・理由>の例は，実現される他の意味に比べて極端に少ない。このことはたんなる“羅列”の機能から派生的に実現されているためと考えられる。

5.3. 時間的関係による해서の機能

해서が時間的関係による意味を実現するのは，해있다形式を持つ動詞を取った，<先行・様態>，<様態>である。これを概念図で示すと次のようになる。



以上の概念図より，後件は前件の動作終了後の結果が継続する局面を受けて行われている。このような点から，해있다形式を持つ動詞を取る해서

は“前件動詞の終了結果が継続する局面全体を受ける”と推測できる。なお，＜様態＞の하고との違いは，하고が現場終了の局面を直接受けて後件に移るのに対して，해서は動作終了の結果が継続する局面全体を受けて後件に移る点である。

5.4. 論理的関係による해서の機能

해서は，基本的に해있다形式を持つ動詞と結合して時間的関係による意味の＜先行・様態＞と＜様態＞になることを見てきた。逆に，하고있다形式のみを持つ動詞は，時間的関係による意味を実現せず，論理的関係による意味のみを実現する。

해서は，アスペクト形式とは関係なくすべての動詞や形容詞，存在詞，指定詞の品詞を問わず取ることが出来，その際＜原因・理由＞となる。

(48) 누구네 큰아이가 아홉 살인데 아직도 오줌을 싸서 큰일이라며 그들은 웃었다. {카프카 : 136}
(何某の上の子が九歳なのだが，いまだにおもらしをして大変だと言いながら彼らは笑った。)

(49) 언니… 방이 너무 더워서 속옷차림으로도 충분히 지낼 수 있겠어요. {며느리 : 219}
(ねえさん… 部屋が暑過ぎて下着姿でも十分過ごすことができそうよ。)

(50) 길남아… 토요일이라서 기숙사가 텅 비니까 더 춥다. 그치? {며느리 : 280}
(キルナム… 土曜日だから寄宿舎に人気がなくてもっと寒いね。そうだろう。)

(51) 오히려, 아무 일도 없어서 그럴 겁니다. {담배 : 157}
(むしろ，なんのこともないからそうなんでしょう。)

(48)，(49)，(50)，(51)は，前件と後件が因果関係をもって結ばれている。

上で述べた<原因・理由>とは違って，形容詞，指定詞，存在詞が해서をとり<手段・方法>を実現しない。해서をとり<手段・方法>の意味を実現するのは，하고있다形式のみを持つ動詞である。例えば，먹다（食べる），읽다（読む）の例を参照されたい。

(52) 스모선수는 밥을 매일 많이 먹어서 살을 찌워야 한다.｛作例｝
　（相撲選手は，ご飯を毎日山食べて太らせなければならない。）
(53) 책을 많이 읽어서 훌륭한 사람이 되어야 한다.｛作例｝
　（本を沢山読んで，立派な人にならなければならない。）

(52) は결과먹다（食べる）が，'매일 많이'（毎日沢山）という前提条件のもとに継続させて，後件 '살을 찌우다'（太らせる）が起こる。(53) は결과읽다（読む）が，많이（沢山）という前提条件のもとに，'훌륭한 사람이 되다'（立派な人になる）が起こる。すなわち，前件の動作全体が後件の '手段・方法' となり後件が起こることが分かる。このような点から，"하고있다形式のみを持つ動詞が해서をとると，前件と後件を "手段・方法" で結ぶ" と推測できる。したがって，하고있다形式のみを持つ動詞であれば，いかなるものであっても해서と結合して<手段・方法>を表すことができる。

6. 終わりに

本研究は，現代朝鮮語の接続形하고，해서についてそれらを取る動詞のアスペクト的特徴との関連性に焦点を当てて，その機能を説明した。

《하고の機能》

時間的関係……하고있다形式のみを持つ動詞をとって，その前件動詞の生起～終了局面のある一点を受ける

非時間的関係…どういうアスペクト形式を持ち得るかとは関係なく，すべての品詞をとって，前件と後件を単に "羅列" させる

《해서の機能》

時間的関係……해있다形式を持つ動詞をとって，その前件動詞の終了結果が継続する局面全体を受ける

論理的関係……(1) どういうアスペクト形式を持ち得るかとは関係なく，すべての品詞をとって，前件と後件を“因果関係”で結ぶ

(2) 하고있다形式のみを持つ動詞をとって，前件と後件を“手段・方法”で結ぶ

さて，하고，해서は，これまで多くの先学によってさまざまな意味として解釈されてきた。代表的な例を次に挙げる。

하고は，최현배（1961：296）の‘움직임의 끝남’（動きの終了），성기철（1972）の‘완료’（完了），전수태（1984）の‘진술완료’（陳述完了）など従来，하고自体が‘終わる’という機能を持つとし，임홍빈（1975：30）では‘상태지속’（状態持続）の意味を持つとした。しかし，하고はそれと結合する動詞の生起～終了局面のある一点を受けるというこれまで考察を通じてみてきたように，하고自体に‘完了’あるいは‘終了’の意味が存在するのではなく，結合する動詞の現場終了の局面を受けた時，初めて前件に‘終了’の意味がもたされるのである。

また，서정수（1985，1996），남기심（1994）らによって，하고は単なる“並列”の機能しかないという語用的条件に着目した極論が最近の傾向といえるが，하고にたんなる“並列”の機能しかないとしたのは頷けない。(54)

해서は，최현배（1961:299）の‘가짐’（持続）と‘수’（方法），성기철（1972：700）では‘가짐’であるとした。特に서정수（1990：333）では，会話において，해서は‘해 가지고’，‘해 갖고’などに言い換え得ることを指摘，基本的な意味は‘가짐’と規定している。確かに，해서が‘해 가지고’，‘해 갖고’と言い換え得ることについては興味深いが，해서自体が‘가짐’という意味を持つのではない，ということは以上の研究を通して明らかになった。また，권재일（1985：59-60），조오현（1991：41）などでは，‘완료지속’（完了持続）であるとし，해서自体がそのような時制

の意味を持っているがために，"했（-았/었）"の時制の制約を受ける(55)と述べる。しかし，これまでの論述から，해서が時間的関係による意味を実現する際，해있다形式を持つ動詞の終了結果が継続する局面全体を受け，論理的関係の意味を実現する際は，あらゆる品詞を取って＜原因・理由＞を表し，また하고있다形式のみを持つ動詞を取ると＜手段・方法＞となるのである。したがって，해서自体に時制が存在するとしたのは頷けない。

終りに，'들고 앉아서'（持って座って）のように해서が하고を包含する構造が，'앉아서 들고'（座って持って）になれば하고は해서を包含しないといった文構造的な側面，すなわち統辞的観点からの研究はいっさい行っていない。また，'걸어서 가다'（歩いて行く）は，'걸어 가다'（歩いて行く）と言い換えられるように，해서と해（-아/-어）とは深く関連しているのであるが，このような観点も触れ得なかった。今後の課題としたい。

【謝辞】本稿をまとめるに当たり，菅野裕臣先生にはいろいろとご教授いただきました。また，指導教官の野間秀樹先生を初め，伊藤英人，高東昊の諸先生にはひとかたならぬご指導をいただきました。浜之上幸先生のご論考からは多くのことを学びましたが，特にアスペクトに関しては直接ご指導くださいました。権在淑先生のご論考は本稿の出発点であり，本研究を進めるに当たって常に参照させていただきました。渡辺洋子，Festus Jenning 両先生には得がたいご意見と常に励ましていただきました。東京外国語大学大学院研究員の송미령，国費留学生の박소영，交換留学生の이은경，봉미경の4氏には多くのご助言をいただきました。そして，東京外国語大学大学院生の中島仁，中西恭子の両氏，友人の荒井信子氏，及び夫の井実充史に心より感謝を捧げたいと思います。

註

(1) 本稿は，2000年4月25日，第165回朝鮮語研究会における発表を改稿したものである。

(2) 代表的な用言하다（する）を借りて，「Ⅰ-고」を「하고」と表記することにする。「接続形」等，基本的な文法用語は菅野裕臣（1981）による。語基の概念は，河野六郎（1979：510-512，485）及び，菅野裕臣（1981：82，90）参照。第Ⅰ語基は語根に＜-ø-＞を，第Ⅱ語基は＜-으-/-ø-＞，第Ⅲは，＜-아/-어＞がついて形成される。

(3) 성기철（1972），김홍수（1977），南基心（1978a，1978b，1980，1994），任洪彬（1975），김승곤（1978），김진수（1978a，b），서정수（1971，1982a，1982b，1990，1996），유목상（1985），조오현（1991），崔在喜（1991），權在淑（1994b），

鄭玄淑（1996，1999），内山政春（1999）などがある。

(4) 意志動詞とは，해라や하라などの命令形，하자などの勧誘形，'하고 싶다'形式を取り得る動詞で，これらを取り得ない動詞が無意志動詞である。菅野裕臣（1986-7：第2巻7号65）参照。

(5) 鄭鉉淑（1996）は，以後'鉉'を'玄'に改めて表記する。

(6) タクシス（Taxis）については，菅野裕臣（1991：32-35）及び，浜之上幸（1992：77-85）参照。鄭玄淑（1996：78-80）は，하고の実現する諸意味が＜先行＞＜様態＞＜同時＞の時間的タクシス性のものと＜原因・理由＞の論理的タクシスとに分けられるとし，特に＜並列＞のように時間的タクシス性をいっさい含まないものがあることを明らかにしている。また，権在淑（1994）は해서の実現する諸意味が「chronological（時間順的）なタクシス的性格が貫かれているといってよい」と指摘している。ただし，論理的なタクシス性については言及していない。

(7) 浜之上幸（1991）で「アスペクト的意味」と呼ばれているものを，本稿では「アスペクト的特徴」と呼ぶことにする。

(8) 菅野裕臣訳（1971：注42，43）によれば，朝鮮語のアスペクトと接続形の関連性を述べているのはRachkov（1962），Xolodovich [Холодович]（1963）であり，後者は하고と해のみを扱っている。Rachkov（1962）は，他動詞，自動詞のレベルを第一段階として，さらにそれらが状態性を持つか否かで限界動詞と非限界動詞に分類する。さらに，アスペクトによる動詞分類の観点から하고を해서，해と比較し，後件を가다，오다に限定したうえで「他動詞と限界自動詞が「-고」形を持つのに対して，非限界自動詞だけが「-아/-어」あるいは「-아서/-어서」形を持つ」としている。

(9) '밥을 먹었다'（ご飯を食べた），'손을 씻었다'（手を洗った），'차를 탔다'（車に乗った）などを「行為完了」とみて，「完了相」としているようである。ところが，하고を取って先行性を表さない갔다，앉았다，끌었다，걸었다は「完了相」なのかどうかなど，アスペクト的特徴についての定義が曖昧である。

(10) 本稿では，'-아/어'（＝해）と해서はそれぞれ独自の機能を有するものとして考える。詳しいことは，鄭玄淑（1999：304-305）参照。

(11) 内山政春（1999：23）は，해서の文法的意味について，＜先行＞と＜様態＞の区別をせず，＜様態＞を＜先行＞に含ませてしまうことを新たに提起している。この論文の重要な主張のひとつであるが，結論部分で「「先行」をふくめたすべての文法的意味には何らかの意味での用言1と用言2とのむすびつきがふくまれている」と述べ，その際の＜先行＞における「何らかの意味での用言1と用言2とのむすびつき」を「一体化」という概念で説明しようとする。ところが，この「一体化」という概念は，他動詞において用言2が用言1の客体を保持する場合，用言1の客体が主体に引き寄せられた状態で用言2が行われる場合，主体が移動することによって客体を主体自身へ近づけ

ようとする動作が用言1に認められる場合，移動動詞において用言1の終了局面における主体の位置が用言2の行われる位置と同一である場合に適用されており，要するに，客体が存在するときは主体と客体が接近することを意味し，存在しない場合には主体が動作を行う空間が前件と後件で一致していることを意味していると考えられる。しかし，主体と客体の接近と主体の動作空間の一致はまったく別個の概念であって，これを「一体化」という一語で括ってしまうのであれば，そこでは「前件と後件が何らかの関係を持つ」という程度の意味しか持たせることができないであろう。論の本質に関わる重要な概念だけに，明確かつ詳細な概念規定をする必要があるのではないか。「場面」の曖昧性については註（10）参照。

(12) 内山政春（1999：43）は，하고について前件と後件の「場面のことなりを積極的にあらわすというよりは同一場面であることを明言しない文法形式」と述べるが，そうであれば，'리어카를 끌고 가다'（リヤカーを牽いていく），'책을 들고 읽는다'（本を持って読む）のように同一場面であることが明白な文が成立することをどう説明すればよいのであろうか。「同一場面であることを明言しない」だけであるから，同一場面であってもかまわないというのであるなら，その文法形式の意味は「用言1を接続形として機能させること自体（「羅列」といいかえてもよい）」に限りなく近づくと思われるが，そうであれば今度は '*걷고 가다'（歩いて行く），'*끌리고 가다' などが非文となる理由が説明できなくなる。また，해서についてはその文法的意味として＜先行＞を認めているが，3.2.2.1. で詳論するように해서は＜先行＞の意味を実現しないと思われる。

(13) 浜之上幸（1991：2-7）参照。

(14) 資料は野間秀樹（1996:134）の「時代限定の原則」，「場所限定の原則」，「ジャンル限定の原則」に従って，1980年代以降に大韓民国で出版された小説，戯曲，漫画から選択する。分析は基本的に筆者の内省によって行うが，判断が微妙な場合は，他の母語話者にも確認をとる。

(15) 野間秀樹（1990：4）は，名詞分類の際に「すべての名詞が一定の文脈の中で扱われるべきことを前提とする」と述べ，当該の単語のみならず文脈を共に扱うことの重要性を指摘している。浜之上幸（1991：27）も参照。

(16) 鄭玄淑（1996）の定義に一部不備のあるものを加えた。

(17) 鄭玄淑（1996：78-80）は，時間的タクシス性の強度により，하고の実現意味を＜先行＞＜様態＞＜同時＞の順に位置づけ，＜原因・理由＞は論理的タクシス性に当たるとした。

(18) Maslov（1978）によれば，アスペクトとは「動詞によって表された動作を，話し手が時間におけるその動作の経過と配分の観点から（ただし発話の瞬間とは関係なしに）行うあれこれの評価，特徴づけ」であり，アスペクトは時間との関連性が強いといえる。

(19) 動作や状態の「主体」と，文の成分としての「主語」，及び発話の担い手としての「話し手」はそれぞれ区別する。野間秀樹（1990：57）参照。

(20) ここでの場面が異なるという意味は，鄭玄淑（1996：24）でも指摘しているように，前件と後件が異なる場所で行われていることを意味し，別々の場面で行われていることはすなわち，時間的な隔たりがあることを意味する。

(21) 否定や不可能，禁止を表す意味の用言は，本稿においては考察の対象外とした。

(22) 浜之上幸（1991：23）では，菅野他（1988）をもとにして，動詞が하고있다，해있다を取るかどうかを次のような表で示している。

	하고 있다	해 있다	動詞の例
他動詞	＋	－	알다(分かる)，먹다(食べる)，잡다(握る)
	－	－	닮다(似る)，맞다(合う)
自動詞	＋	＋	열중하다(熱中する)，오다(来る)
	＋	－	늦다(遅れる)，걷다(歩く)
	－	＋	늙다(老いる)，돌다(気が触れる)
	－	－	결혼하다(結婚する)，생기다(見える)

（＋はこの形式を持つことを示し，－はこの形式を持たないことを示す。）

(23) 浜之上幸（1991:26）のアスペクト的クラスの枠組は，以下のようなアスペクト的クラスの枠組みを提示している。

- 形容詞
- 動詞
  - 状態動詞 …………………… 닮다（似る），늙다（老いる）など
  - 動作動詞
    - 状態性動作動詞 ………… 알다（分かる），늦다（遅れる）
    - 動作性動作動詞
      - 主体変化動詞 ……… 잡다（握る），오다（来る）
      - 主体非変化動詞 …… 먹다（食べる），걷다（歩く）

このアスペクト的クラスの枠組みは浜之上幸（1997b：371）で発展させられている。

(24) ただし，文中に動作の反復，複数回を表す状況語がこない場合や，後件に살다（生きる，暮らす）などの習慣的な事柄がこない場合に限る。このことは＜様態＞＜継起＞においても同様である。

(25) 文中に反復や継続，習慣的な事柄を意味する副詞，状況語がなければ＜先行＞となる。

(26) このことは，浜之上幸氏から第165回朝鮮語研究会においてご教示をいただ

いたものである。

(27) 만나다 (会う) は, "? 저녁에 만나고 밥을 먹다 (夕方あってご飯を食べる)" と言った場合, 後件 '밥을 먹다' (ご飯を食べる) を行う最中に, 前件に対して '만나고 있다' (会っている) と言えることになる。しかし, 母語話者に確認するとこのような例の場合, "저녁에 만나서 밥을 먹다 (夕方あってご飯を食べる)" の方が自然だと指摘する。実例においても만나다 (会う) は, 前件と後件が同じ場面で行われる場合はすべて해서をとって表れる (3.3.2.1. 参照)。
なお, '약을 먹고 나았다' (薬を飲んで直った) のような例は, 前件が原因・理由となり, その結果が後件として表れるという, ＜原因・理由＞の意味となる。

(28) 浜之上幸 (1991:51-53) では, 「状態性動作動詞」のうち「心理動詞」は「主体の精神活動」を表し, 「抽象動作動詞」は「抽象的な動作を表す」とあり, これらの例は＜継起＞となる。なお, 「心理動詞」とされている動詞のうち, 알다 (知る), 보다 (見る), 듣다 (聞く) などの知覚活動を表すものは, 話者の認識の上でのみではあるが '지금 막 알았다. (たった今知った。)' などのように, 現場終了局面を持つことができる。厳密には, 他の心理的な活動を表す動詞類と区別して扱うべきで, より具体的な考察を要するが, 今回は触れられなかった。

(29) 하면서の＜同時＞は, 菅野裕臣他 (1988 ; 19912), 柴公也 (1984 : 135), 鄭玄淑 (1996 : 50-52) 参照。

(30) 擬声擬態語＋ (-거리다) 조잘-, 철렁-, 덜거덕-, 깔깔-, 擬声擬態語＋ (-대다) 깔깔-, 낄낄-, などの反復を表す語彙が現われる。

(31) 浜之上幸 (1991 : 35-36) では움직이다, 끼다, 떨다, 다니다のように「具体的な事象を表す文脈」の場合, 動作の終了後の局面において「主体は動作の生起以前の状態に戻ることができる意味」で主体は変化しないと述べ, また「主体は動作の終了直後に同じ動作を再び繰り返すことが可能」で, その理由として「主体は動作の終了後, 動作の生起以前の状態が復元されているからである」と述べている。

(32) ただし, "하룻밤 지내고 갔다. (一晩過ごして行った。)", "놀고 갔다. (遊んで行った。) のように, 現場終了局面を持たない動詞が＜先行＞となる場合もある。지내다 (過ごす), 놀다 (遊ぶ) などは '지금 막 지냈다' (たった今過ごした) や '지금 막 놀았다' (たった今遊んだ), とは言えないので, 現場終了局面を持たない。しかし, '過ごす' と '行く' 及び '遊ぶ' と '行く' は同時間を共有して動作が行われることはあり得ないので, 後件の行為を行う以前に前件の行為が終了していなければならないということが文脈の上で決定される。このように, 後件の内容によって前件が強制的に現場終了局面を持たされる結果＜先行＞になると考えられる。したがって, 結合する動詞

の持つアスペクト的特徴によって実現意味が決定されているわけではない。例えば，'친구 집에서 하룻밤 지내고 공부한다'（友達の家で一晩過ごして勉強する），あるいは '놀고 먹는다'（遊んで食う＝暮らす）などと言った場合は，前件と後件が하고と結合して先行性を失い，同時性を持ってしまう。

(33) 重い荷物を載せて全く動かなかったリヤカーを，力持ちの人が来てほんの少し動かしたという場面で，'지금 막 리어카를 끌었다'（たった今リヤカーを牽いた＝動ごかせた）と言うような場合は可能であろう。

(34) また，'씻고 또 씻는다'（洗ってまた洗う）のような＜並列＞，'교도관과 싸우고 징벌을 받는다'（看守と喧嘩して／喧嘩したために懲罰を受ける）のような＜原因・理由＞の意味を表すが，極めて少数である。

(35) 結果が残らないというのは主体に関してであって，包んだもの＝客体がそこに残っているから結果が残ると見るのではない。

(36) この種の用例を，임홍빈（1983）は「方法」とし，양인석（1972：6）は「前段階手段（pre-step means）」とする。

(37) 浜之上幸（1992a：59）では，主体変化動詞，主体非変化動詞はさらに，客体が変化されているかどうかで「客体変化動詞」と「客体非変化動詞」に下位分類されている。ここでは，먹다（食べる），싸다（包む）主体非変化動詞のうち，後者のような――包まれた後――客体は変化されている場合である。

(38) 홍재성（1987）は「対称動詞」とよぶ。

(39) 以下同様の例を挙げる。*客*は「客体変化動詞」を意味し，*近*は主体が客体を近づけたり，主体が客体を相手に近づけさせたりする動詞を意味する。
고르다（미리）：팔다｜*客*，고치다：갖고 나가다/언니가｜*客*，굽다：먹다/자글자글｜*客*，그리다：보여드리다/그걸｜*客*，긁어내다：살다/돈을：화려하게，기르다：갖다/꽃을：강릉에다｜*客*，꺼내다：달아보다/：무게도｜*客*，꺼내다：읽어보다/편지는｜*客*，꺾다：들어가다/고속도로에서，끓이다：넣어두다/국을：냉장고에｜*客*，낳다：키우다/아들｜*客*，내서：중지시키다/기척을，넘다：올라가다/울타리：조금만더，넣다：끓다/물을｜*客*，담다：보내다/유물상자에｜*客*，담다：팽개쳐버리다/통조림통에｜*客*，뒤지다：수거되지 않다/서점을，들다：부비다/손을：눈을｜*客*，들이없다：데다/국그릇을｜*客*，따다：묻다/파를：잎에｜*客*，뜨다：넣다/한 숫가락：입에다｜*客*，뜨다：올려 놓다/소반위에｜*客*，떼어내서：찔러보다｜*客*，뜯다：붙이다｜*客*，만나다：가기로 하다（같이）｜*近*，만들다：외치다/손을나팔처럼｜*客*，말다：내밀다/둘둘：도화지한장을｜*客*，맞추다：실시하다/구령에，맡다：하다/필요로하는 일을，먹이다，모으다：차리다/돈이나：카페｜*客*，묻다：살려주다/빽있는 놈：오빠，받다：드리다（다）/봉급｜*近*，받다：피우다/라이트를 한대｜*近*，벌다：하다/돈을/뭘｜*近*，벗기다（홀딱）：짓이겨주다｜*客*，보내다：교대해 주다/엄마｜*近*，불러내다：나가다｜*近*，빌리다：넣다/돈은：입주권을｜*近*，빗다（단정하게）：꽂다/：핀을｜*客*，빨다：말리다/팬티도｜*客*，뽑다：가지고가다/들국화를｜*客*，삶다：들여놓다/달걀을：

주전자채｜客, 사다：듣다/마란츠를：모차르트나｜近, 사다：타다/말을｜近, 삶다：들여놓다/달걀을：주전자째｜客, 세다：하다/열심히：뭐, 세우다：보다/차를：소변을｜客, 싸다：보관해두다（곱게）/봉지｜客, 싸다：들다/상추 마늘｜客, 써다：죽이다/괴를：호랑이를, 씨다：우송하다/시를：잡지사에｜客, 쑤다：주다/죽을：개를｜客, 쏘다：죽이다/총을, 쑤다/죽을｜客, 씻다（한번）：요리하다/물에｜客, 얹다：끓이다/고체연료위에다｜客, 염색하다：비춰보다｜客, 잇다（꼭）：쓰다/나무막대기를｜客, 잇다（조각조각）：말듣다｜客, 자르다（가로）：낸 도로/산을｜客, 잡다：뜯어내다/꼬투리：돈을, 저미다：넣다/칼로｜客, 적다：두다｜客, 줍다：넣다/돌멩이를：불속｜近, 주다：시키다/남을｜近, 주다：내보내다/장사밑천을｜近, 집어 넣다：잇게하다/금속을：뼈와뼈를, 짜다：쓰다/치약을｜客, 찌르다：파악하다/약점을：심리를, 차다：늘어뜨리다/점광자일을, 치다：가져가 버리다/내빵을, 켜다：붙다/라이터를：불을｜客, 타다：올라가다/커피를｜客, 터다：계산하다/쓰던걸：셋으로｜客, 파다：사다/흙을：종이｜客, 파헤치다：하다/무덤을：부관참시를｜客, 팔다：공부시키다/몸：자식, 꽤다：묶다/가늘게：장작을｜客, 풀다：찍어 먹다/무즙만｜客, 합치다：살다/힘을：같이, 걸다：주의하다/전화를：서로들, 等。他に하다動詞が92例あり，＜手段・方法＞を表す。

(40) 協力していただいた母語話者は次の方々（敬称略）。강정석（東京外国語大学交換留学生，ソウル大学言語学科4年生），김은애（東京外国語大学日本専攻3年生），백인영（東京外国語大学大学院生），성기웅（東京外国語大学交換留学生，延世大国語国文学科4年生），송정미（専門学校生），이신민（東京外国語大学日本専攻3年生），이지은（東京外国語大学日本専攻2年生），정봉순（専門学校生），천일환（東京外国語大学交換留学生，延世大国語国文学科4年生），최옥경（東京外国語大学大学院生）。以上，1960年代から1970年代に生まれた20代～30代の方々である。調査は2000年3月に面談式で実施した。本稿は，以上の方々のご協力がなくでは完成され得なかったであろう。この場を借りて心から感謝申し上げたい。

(41) 以下同様の例を挙げる。기대다：말하다（寄りかかる：話す），들다：비비다/손을：눈을（挙げる：こする/手を：目を），뜨다：보다/눈을：그를（開ける：見る/目を：彼を），피다：겨누다/손가락을：얼굴에（開く：指差す/指を：顔に），펴다：뛰어오르다/날개를（開く：飛び上がる/羽を），펼치다：내밀다（伸ばす：突き出す），等。

(42) 鄭玄淑（1999）では，하고を取って＜様態＞を表す特定の動詞群は，하고있다形式の持つ終了局面を受けるが，それらが해서を取るときには，前件節と後件節の文脈の意味によって＜手段・方法＞と＜原因・理由＞の意味を実現することを論じた。

(43) 以下同様の例を挙げる。내다：말하다/용기를（出す：話す/勇気を），뒤지다：확인하다（くまなく捜す：確認する），따르다：달려오다/길을（沿う：走る/

道を), 때리다 : 죽이다 (打つ : 殺す), 묶다 : 피우는 담배 (まとめる : 吸うタバコ), 읊조리다 : 세뇌시키다 (しゃべり続ける : 洗脳させる), 에둘르다 : 말하다 (遠回しにする : 言う), 올리다 : 말하다/열을 (熱をあげる : 話す), 딱 자르다 : 말하다 (きっぱり切る : 言う), 짓다/대열을 (つくる : 隊列を), 等。'차를 몰다' (車を牽く), '리어카를 밀다' (リヤカーを押す) などの客体を操縦する意味の動詞類が背辞を取った例は, ＜手段・方法＞＜原因・理由＞の如何に関わらず, 今回収集したなかには見当たらなかった。

(44) 以下同様の例を挙げる。걷다 (歩く), 기다 (這う), 구르다 (転がる), 날다 (飛ぶ), 달리다 (走る), 뛰다 (駆ける), 쫓아다니다 (駆けまわる), 等。

(45) 浜之上幸 (1991 : 29-33) の言う「主体変化動詞」は, さらに「生起変化動詞」と「終了変化動詞」とに分けられ, 前者は하고있다を持っていることですでに一部の主体の変化が実現されており,「動作の生起の局面で主体の変化が実現」されるとし, 後者は하고있다を持っていないことから「動作の終了の局面にいったて初めて主体の変化が実現」されるとする。前者の生起変化動詞のうち, 移動動詞類のみが해서を取ると前件の '先行性' が表れる。

(46) 野間秀樹 (1993a : 146-147) 参照。本稿ではさらに, 移動動詞の概念を広げ, 올라가다 (登って行く), 올라오다 (登って来る) などの合成動詞や도망을 가다, 도망을 치다 (逃げる) など-을/를がついたもの, 외출하다 (外出する), 퇴근하다 (退社する) などの하다動詞や往来, 外出, 離脱の意味を持つものは全て含める。しかし, 소녀티를 벗어나다 (少女らしさから抜け出る) のように空間的な移動の意味を持たないもの, 다니다 (通う), 쫓아다니다 (つきまとう) など往復の意味を持つものは除外する。

(47) 権在淑 (1994 : 12) 及び内山政春 (1999 : 26) は, このように移動動詞が해서を取る場合を＜先行＞としている。

(48) 母語話者の 9 人に確認したところ, 全員が認めた。しかし, 가다 (行く), 오다 (来る) のような動詞が해서を取ると, '先行性' を帯びるとの指摘があった。

(49) このニュアンスの違いについて母語話者 8 人に確かめたところ, 全員が認めた。

(50) 朝鮮の諺に '엎드려 절받기' (身を伏せてお辞儀を受ける…相手がする気がないのを無理にさせるの意) という言葉があるように, -아/어려でも言い換えられることが多いようである。

(51) 同類の例を가다 (行く), 오다 (来る) のような移動動詞, 앉다 (座る), 서다 (立つ) など姿勢を意味する動詞除き, 一括して掲げる。가나다…順に以下に挙げておく。また, 両アスペクト形式の有無については, 10 人の母語話者に確認を取り, その中の 7 人以上で答えが一致したものを挙げた。しかし, 母語話者の間でも揺れが多く, 有無の認定は非常に困難であったため, 結果が明確に出ず筆者の内省によったものもある。
なお, +/+の記号は하고있다形式有, 해있다形式有を表し, '前件 : 後件／

前件主体または客体：後件の主体または客体' の順で記す。なお，受は受動態，トはト書きを示している。？は，母語話者によって判断が大きくゆれる例である。

+/+감동하다:퍼붓다/찬사를，+/+강해지다/저항력이，-/+갇히다:냉동되다/천년동안을，+/+공모하다：죽다，+/+괴로워지다，-/+그어지다：이어져있다/자국이，-/+깔리다：듣다/배밑에：소리｜受，+/+깨어나다：달려가다，+/+깨어나다：쓰다/：악을，-/+깨지다：흘러내리다/골이，-/+끼다 (아무데나)자다，-/+나다:오락가락하다/화가，+/+나서다:하다/:농성을，+/+나서다:열다/：커피병을，+/+나서다：말리다，+/+나서다：관목을 헤치다，+/+나오다 (진이) :/붙다，+/+나타나다：가로막다/：길을，-/+남다：졸다/비눌기만，-/+넘다：들어오다/열두시가，+/+노력하다：되다，+/+놀라다｜ト，-/+느슷해지다:반다/:세면가에，+/+당황하다｜ト，+/+더러워지다：돌아오다，+/+더하다，+/+돌변하다：해주다/：보호자노릇을，-/+동떨어지다：나오다，+/+둥그레지다：쫓아가다/눈이，-/+되다/할망구가，+/+되다/범벅이，+/+들러붙다：알랑방귀뀌다，+/+떨어지다：내려다보다/서로，-/+떨어지다 (멀리):돌다，-/+뜨다/가로로，-/+뜨다:잡아빼다/:목울，-/+만취하다:들어오다，-/+망령하다:입산하다，+/+모이다:꾸물거리다 (새까맣게) /저희들끼리만，+/+밀려나다:빌빌거리다，+/+발개지다:접다/얼굴이:출석부를，-/+배가 차다：돌아서다，+/+벗어나다：살다，-/+부활하다：나타나다，-/+붙다：벌다/출판사에：용돈，-/+빠지다：/허영심에，+/+사라지다/분위기가(消える)，-/+사로잡히다:몽롱해지다/허탈감，-/+살다〔生〕:빠져나가다，-/+섬짓하다｜ト，+/+성공하다:키워놓다/:아들딸，-/+숨다：피하다/：나의눈을，+/+쉬이다，-/+시무룩해지다｜ト，+/+싸이다：옮기다/침묵에：발걸음만｜受，+/+안주하다：낳다/：새끼를，+/+앞장서다：가다，-/+앞세워지다：끌려다니다，+/+얽히다｜受，+/+얽매이다｜受，+/+얽매여지다｜受，+/+오르다:얄밉게 보이다/살이，-/+응하다:만나기로 하다，-/+의기양양하다：말하다，+/+의기양양해지다:떠들다，+/+이끌리다:퇴보해가다/일에｜受，+/+이상해지다｜ト，-/+일어나다:가다，-/+일어서다:나가다，-/+?입대하다：편지하다，-/+정색하다｜ト，-/+젖다：기울이다/감정에：귀를，-/+죽다 (死ぬ)，-/+죽다:갚아달라고하다/기가，-/+질리다:보다，-/+질리다｜ト，+/+집중하다：쓰다，-/+찢어지다：쫓겨나다，-/+차다/배가，-/+차다/숨이，-/+차다/확신에，+/+차분해지다｜ト，+/+출세하다：큰돈벌다，-/+취하다：따라가다/술에，-/+취하다：자다，-/+취하다：홍어대다，-/+측은하다｜ト，-/+?태어나다：안겨있다，+/+커지다：달리다/키가，-/+토라지다：퍼붓다/：욕을，-/+틀어박히다：하다，-/+파멸되다，+/+팔리다：/정신이｜受，-/+풀이죽다：엎드려 있다，-/+화나다｜ト，-/+흐뭇해지다｜ト。

以上はすべて，해있다形式を持ち，해서を取って<様態>を表している例である。

(52) 浜之上幸（1991:70）は「事象の属性や関係性などを表す動詞」と定義する。

(53) 母語話者の多くはこのような動詞類が하고，해서どちらを取っても＜様態＞になると指摘した。

(54) まず，서정수（1985）の順接関係の対等接続語尾で，他に順次接続や因果，方法，様態の意味は語用論的な条件によるとしている。次に，남기심（1994）は実際の言語資料を基に分析を行い，하고を「ある特定な統語的条件よりも語用的条件，すなわち文脈的条件によって表す」ことができる「特殊な機能」を有するとした。서정수（1996：1154）も，前掲説を受けて「"고"自体には単純な並列の関係を表す役割だけを有する」と結論づけるが，ここに語用的条件に着目する하고研究の極論が表明されたといえよう。

(55) 他に，허웅（1979：69-70）'문을 열어서 밖을 보라'（ドアを明けて外を見ろ）のような例文は，'その状態を維持したまま'の'状態維持'の意味を持つとした。이상복（1980：87-88）は해서の基本的な意味は'後行節の行為や状態が成し遂げられる（或いは"成し遂げた"）状態を見せる'といした。

参 考 文 献

《朝鮮語で書かれたもの——가나다順——》

간노.　(1971)［菅野裕臣］譯註 "蘇聯의 韓國語學"「亞細亞研究」Vol. XIV No. 2　高麗大學校亞細亞問題研究所.

高永根　(1975) "現代國語의 語末語尾에 대한 構造的 研究"『應用言語學』7-1.

구현정　(1987) "씨끝 {-아}{-게}{-지}{-고} 의 쓰임과 의미"『새 우리말 연구』과학사.

김승곤　(1978) "상태지속연결어미 {-아} 에 대하여"『허웅박사 환갑 기념 논문집』.

———　(1981) "한국어 연결형 어미의 의미 분석 연구 I"『한글』173-4, 한글학회.

———　(1984) "한국어 이음씨끝의 의미 및 통어 기능 연구 (1)"『한글』186, 한글학회.

———　(1987) "형태소 {-아/어, -게, -지, -고} 에 대한 통어적 기능 고찰"「새 우리말 연구」과학사.

金珍洙　(1987a) "'고', '-(으)며', '-(으)면서' 의 통사・의미의 상관성"『國語學』16, (心岳李崇寧先生八旬記念號) 국어학회.

———　(1987b)「국어 접속조사와 어미 연구」塔出版社.

金倉燮　(1981) "現代國語의 複合動詞의 研究"『國語研究』47, 國語研究會.

김홍수　(1977) "계기의 '고' 에 대하여"『國語學』5, 국어학회.

권재일　(1985)「국어 복합문 구성연구」집문당.

南基心　(1978a) "국어 연결어미의 화용론적 기능：나열형 '-고' 를 중심으로"『延世論叢（人文社會科學編)』15, 延世大學校大學院.

——— (1978b) "'-아서' 의 화용론" 『말』 3, 연세대한국어학당.
——— (1980) "연결어미 '고' 에 의한 접속문에 대하여" 第1回 『韓國學國際學術會議 論文集』 韓國精神文化研究院.
남기심・루코프 (1983) "論理的 形式으로서의 '-니까' 구문과 '-아서' 구문" 『국어의 통사・의미론』 탑출판사.
——— (1985a) "접속어미와 부사형어미" 『말』 10, 연세대한국어학당.
——— (1985b) 『國語文法의 時制問題에 關한 研究』 塔出版社.
——— (1994 a) "'-고', '-어서', '-니까', '-다가' 의 통사적 특징" 『국어 연결어미의 쓰임』 서광학술자료사.
남기심・고영근 (1998) 『표준 국어문법론』 개정판 塔出版社.
노마 히데키 (野間秀樹) (1993a) 「現代韓國語의 接續形<-다가>에 對하여 —— aspect・taxis・用言分類——」『朝鮮学報』 第149, 朝鮮学会.
서정수 (1971) "국어의 용언어미 '-어 (서)' 『한글학회 50돌기념논문집』 한글학회.
——— (1982) "연결어미 '고' 와 '어서'" 『언어와 언어학』 18, 한국외국어대학교.
——— (1985) "국어의 접속어미 연구" 탑출판사.
——— (1990) "국어 문법의 연구 Ⅰ, Ⅱ" 한글, 189.
——— (1996) 『국어문법』 한양대학교 출판부.
徐泰龍 (1979) "國語接續文에 대한 研究" 『國語研究』 40, 서울대학교.
성기철 (1972) "어미 '고' 와 '어' 의 비교연구" 『國語研究』 40, 서울대학교.
유목상 (1985) 『서술 연결형 어미 연구』 집문당.
유타니 유키도시 [油谷幸利] (1978) 「現代韓國語의 動詞分類——aspect를 중심으로——」『朝鮮学報』 87, 朝鮮学会.
윤평현 (1989) 『국어 접속어미의 연구』 "의미론적 기능을 중심으로" 한신문화사.
李翊燮・任洪彬 (1983) 『國語學槪說』 學研社.
任洪彬 (1975) "不定法 {어} 와 狀態陳述의 {고}", 國民大學論文集 8, 國民大學校
진수태 (1984) "진술미완의 '-아'와 진술완료의 '-고'" 『한글』 185, 한글학회.
정현숙 (1999) "특정한 동사류와 <-고>, <-어서>와의 통합에 대하여" 『언어학』 25, 언어학회.
조오현 (1991) 『국어의 이유구문 연구』 한신문화사.
홍재성 (1987) 『현대 한국어 동사구문의 연구』 塔出版社.
황병순 (1986) "'-어' 와 '-고' 의 기능에 대하여——복합동사와 조동사구문을 통해——" 『국어학신연구』 탑출판사.

崔在喜　(1985)“'-고' 接續文의 樣相”『국어 국문학』94.
崔在喜　(1991)『국어의 접속문 구성 연구』탑출판사.
최현배 (1929；1961)『우리말본』정음문화사.

《日本語で書かれたもの——あいうえお順——》
内山政春　(1999)「現代朝鮮語の接続形-어서と-고について」『朝鮮学報』162, 朝鮮学会.
生越直樹　(1987)「日本語の接続助詞『て』と朝鮮語の連結語尾 {a} {ko}」『日本語教育』62, 日本教育学会.
菅野裕臣　(1981)『朝鮮語の入門』白水社.
——　(1986-7)「中級講座」『基礎ハングル』第2巻 1-12, 三修社.
——　(1990)「アスペクト——朝鮮語と日本語」『国文学　解釈と鑑賞』704, 至文堂.
菅野裕臣・早川嘉治・志部昭平・浜田耕策・松原孝俊・野間秀樹・塩田今日子・伊藤英人共編，金周源・徐尚揆・浜之上幸協力 (1988；1991 [2])『コスモス朝和辞典』白水社.
権在淑　(1994a)「現代朝鮮語の用言の接続形 (-아/-어) について」『Lingua』5, 上智大学一般外国語.
——　(1994b)「現代朝鮮語の用言の接続形Ⅲ-서 について」『朝鮮学報』152, 朝鮮学会.
河野六郎　(1979)『河野六郎著作集　第1巻　朝鮮語学論文集』平凡社.
柴公也　(1984)「『～(으)면서』の意味と用法について」『熊本学園大学　文学・言語学論集』第1・2号, 熊本学園大学.
野間秀樹　(1990)「朝鮮語の名詞分類——語彙論・文法論のために——」『朝鮮学報』135, 朝鮮学会.
——　(1993b)「現代朝鮮語の対格と動詞の統辞論」『言語研究　Ⅲ』東京外国語大学語学研究所.
——　(1994)「現代朝鮮語の語彙分類の方法」『言語研究　Ⅳ』東京外国語大学語学研究所.
浜之上幸　(1991)「現代朝鮮語のアスペクト的クラス」『朝鮮学報』138, 朝鮮学会.
——　(1992)「現代朝鮮語の『結果相』＝状態パーフェクト——動作パーフェクトとの対比を中心に——」『朝鮮学報』142, 朝鮮学会.
——　(1997a)「現代朝鮮語における動作の複数性について」『日本語と外国語の対照研究Ⅳ　日本語と朝鮮語』, 国立国語研究所.
——　(1997b)「朝鮮語のアスペクト——日本語との対比の観点から——」『先端的言語理論の構築とその多角的実証(1-B)』(平成8年度COE形成基礎研究費研究成果報告)

鄭玄淑 (1996)「現代朝鮮語接続形-고について——その意味・用法をめぐって——」『朝鮮学報』161, 朝鮮学会.

鄭玄淑 (1998)「現代朝鮮語接続形Ⅰ-고とⅢ-서について」『朝鮮語研究会 発表要旨集』149・150回記念大会, 東京外国語大学.

《その他の言語で書かれたもの——アルファベット順——》

Comrie, B. (1976) *Aspect* Cambridge University Press, London.

Maslov, Ju. S. (1978) *K osnovanijam sopostavitel'noj aspektologii,* v kn.: Voprosy sopostavitel'noj aspektologii, Leningrad (「対照アスペクト論の原理に寄せて」菅野裕臣編訳 (1991) 所収).

<用例を蒐集した文献・資料一覧>

『희곡 백제인간』圖書出版 圓方閣<戯曲>, (1991) の中, 金容洛「마주보는 나무들」, 윤정선「혹시 꽃이?」, 한혜원「딸들의 야망」, 박상률「시인의 나라」, 홍석주「이승 가는 길목」{마주} {혹시} {딸들} {시인} {이승}, (1992) の中, 이만희「그것은 목탁구멍속의 작은 어둠이었습니다」{그것은} を使用。

『現代文学受賞小説集』현대문학<小説>, (1992) の中, 김영현「내마음의 서부」{서부}, (1993) の中, 박완서「家」, 이원규「천사의 날개」{家} {천사}, (1994) の中, 구효서「카프카를 읽는 밤」, 채희윤「길 위에 서서」, 박상우「산타페」, 윤대녕「은어낚시 통신」, 윤정도「벌 새」{카프카} {길} {산타페} {은어} {벌새}, (1996) の中, 구효서「나무남자의 아내」{나무} を使用。

『李箱文学賞 수상작품집』文學思想社<小説>, (1981) 박완서「엄마의 말뚝 2」{엄마}, (1982;1985) 임철우「아버지의 땅」{아버지}, (1982;1986) 이문열「匿名의 섬」{익명}, (1984) 윤정선「해질녘」{해질녘}, (1990;1991) 김영현「벌」, 이청준「흉터」{벌} {흉}, (1992) 최수철「얼음의도 가니」{얼음}, (1993) 공선옥「우리생애의 꽃」{우리}, (1994) 김문수「온천가는 길에」{온천}, 김영현「그리고 아무 말도 하지않았다」{그리고}, 윤대녕「소는 여관으로 들어온다 가끔」{소는}, 윤대녕「킹춥닛」{천지}, (1996) 김이태「궤도를 이탈한 별」{궤도}, 성석재「첫사랑」{첫}, 김형경「담배 피우는 여자」{담배} を使用。

『신춘문예 당선작품집』도서출판 예하<小説>, (1993) 유성식「아주 사소한 류씨 이야기」, 김재순「멀리 있는 땅」{류씨} {멀리} を使用。

『동인문학상 수상작품집』朝鮮日報社<小説>, (1996) 김형경「세상의 둥근 지붕」{세상} を使用。

『三鶴島』東亞<小説>, (1989) 李東河「과천에는 새가 많다」{과천} を使用。

『뜨거운 강』東亞<小說>, (1988) 鄭世盛「王陵」{왕} を使用。
『'90 방송작가 작품선』, 圖書出版 第 3 企劃<小說>, (1990) 김남「코스모스 필 무렵」{코스} を使用。
『며느리 밥풀꽃에 관한 보고서』팀메니아<만화>, (1994) 이현세 {며느리}。

(960-2261 福島市町庭坂字荒町 59—1)